8

アタゴオル玉手箱

ますむら ひろし

KAISEI-SHA FANTASY COMICS

ファンタジーコミックス

アタゴオル玉手箱 8

ますむら ひろし

偕成社

ISBN4-03-014510-8 C0079 ¥900E

9784030145108

定価［本体価格900円＋税］

1920079009003

KAISEI-SHA

古代を酔う

月光河を下る

ATAGOUL

Hiroshi Masumura

8

玉手箱メニュウ

みるつちいろみる

よー ヒデ丸 何の音だい？
ゴンゴン

ゴン

唐あげ丸さん
どうしたんだい？

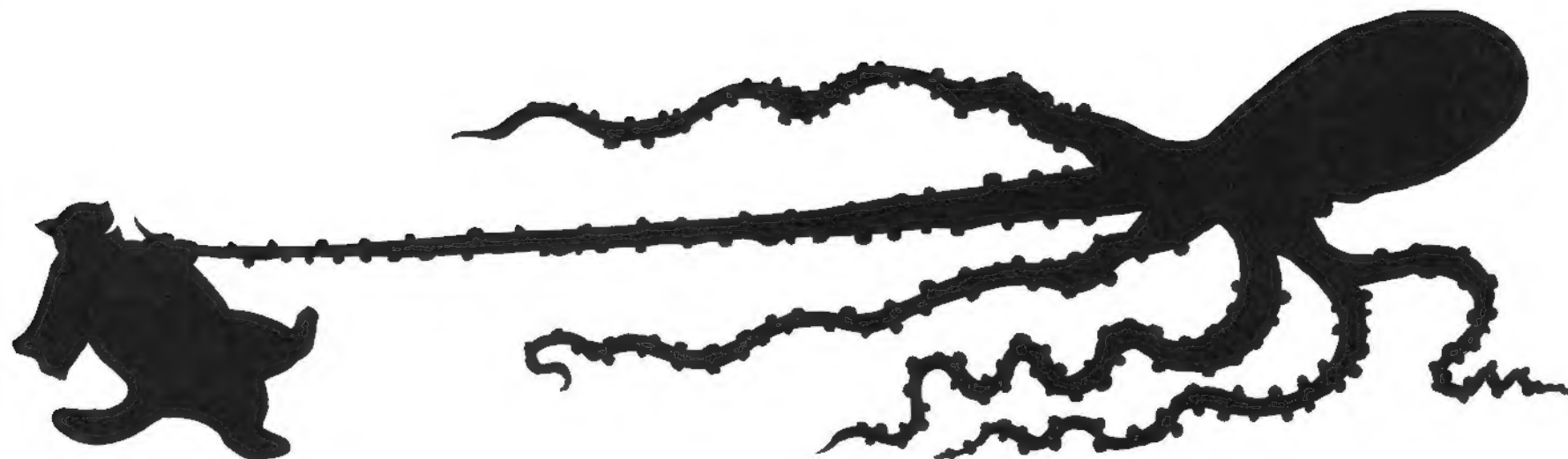
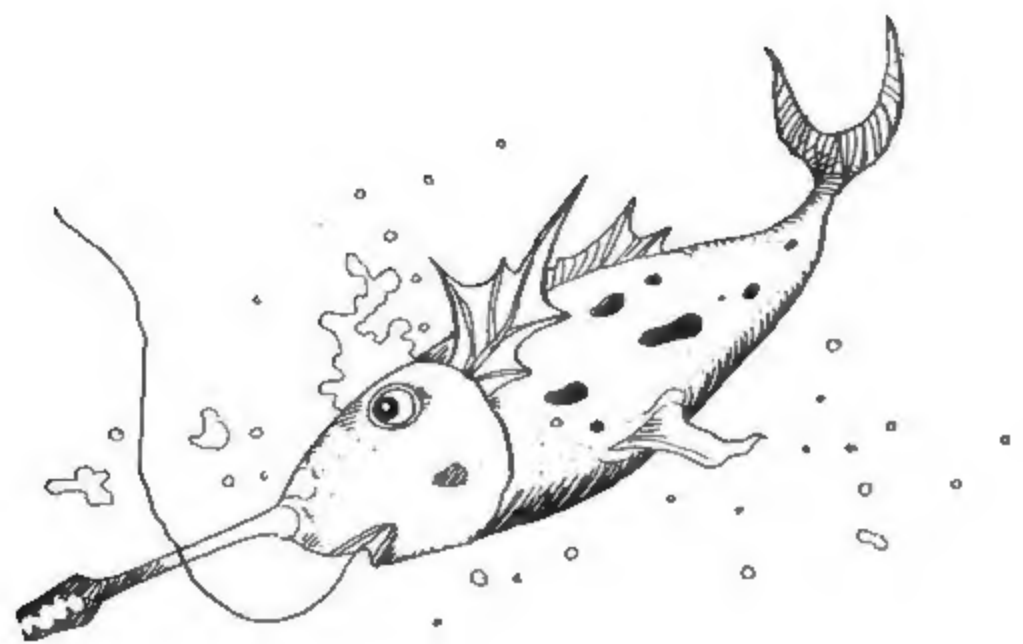
冬の音楽会用の新曲作りに しっかり煮詰っちゃってるんです
ゴンゴン音はすごいけど親方の額は固いからだいじょうぶですよ
ん――っ……
唐あげ丸さんはとことんやるからなあ……

よ――し勝つぞーっ

どうしたんだバッテンがけなんかして？
ムフフム

欠食ドラネコ団と大食い競争をやるんだよ流星森で

この間はカツラに負けましたからね がんばって下さいよ
オウ もう2日も食ってねーんだ バンバコバンよっ
ニャンニャ
歩く食欲が去って行く……
どっ…見えてきた?
ああ…風が透明なヒモみたいだ…
よじれたり離れたりしていくなあ
あれ 何だろう あそこ…帽子みたいな雲の所を流れてくぞ

えっ
何にも
見えないぜ

確かに
妙な型のものが
流れていくよ

んっ!!
流星森に
入っていったぞ

流星森
どうした
がっ、がんばれ
カツラノ
うげーっ
オホホホッ

しかしまあ
カツラもヒデヨノも
毒キノコ食ったり
腹痛ドングリ
食ったり……
ひでえよなあ

どーだっ今回は
オレの勝ちだな

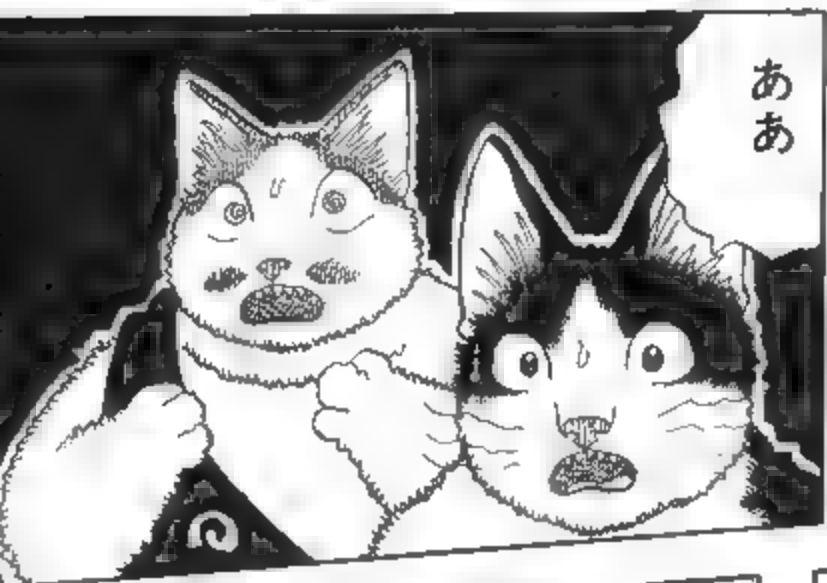
くそ──っ
こうなったら土だ!!
土食うぞっ!!
つち!!

さあ行けっ
カツラ
ドラネコ団の根性見せてやれっ
うぐぐ

もぐもぐ

ブエッ

オッホホホ
ボゴッ
ボゴッ

コラ ヒデヨシ
カツラは少しは
土食ったぞ
お前食えねえだろっ

はぐはぐ
はっ
ザザッ
ああ
ん――っ
ゴクッ
いー味してんぜーっ
ビエーーッ
バケ猫だ～～～っ

勝ったな

あれっ ヒデヨシくん
よーっ ツキミに テンプラ
ガサッ

どうしたんだ ドフネコ団が 逃げて行ったぞ

オレが 土食ったんだ
土!!

そんなもん 食って… 腹こわすぞ
オレの腹は 鉄腹なのさ

聞け 子供よ

サッ

土を愛する者に
悪党なし

汝 土の味を知らずして
この星を語ることなかれっ

出まかせのわりには
しみる言葉だな

ワシゃあ土壌研究の道をつき進んでるスミレ博士つうもんだが
君もひとつ食ってみないか
やだよ
あれっあそこだ

ホフ……あの枝の上

何にも見えないなあ
どうしたんだね君たち
何かおかしなものが……ホラ 西に流れ出した

ツキミ君の目ん玉もスルドイが
ワシの腹もスルドイのだ

うう痛てて…
ヨタッ
テンプラおぶってくれ

土なんか食うからだよ
ホレ もう少しだ
自分で歩け
冷たい奴じゃ
学者とはひどい仕打ちに耐えまくるのじゃ
あいつが腹痛だ!?
土食ったらしいぜ
それで腹痛おこして家で寝てるよ
相変わらずバカ猫の王道をつき進んでいるなあ

……ん〜っ…いい曲だね
パンツ君のおかげですよ

いいですかツキミ姫

ゴシ
ゴシ

あら桐王の木の葉っぱだね

ツキミ姫知ってるんですか
鳥霧山脈のずっと向うに生えてるよ

でも 桐王の木は
アタゴオルには
1本もないはずだぞ

ああ その葉っぱは
鳥霧山脈の向こうに
住んでいる
オレの友達がくれた
手紙の中に
入ってたんだよ
でも 手紙によると
この木はどんどん
枯れ始めてるらしいな

枯れ始めてるって…
こんなみごとな
音を出す木が
何故なんですか

なんでも
よごれた煙を出す
工場や
自分の体ばかり
きれいにする連中が
水を汚すんで土も汚れて
木が弱ってきてるん
だってさ

むっ
むむっ
むごたらしい！

むげあ
あーっ親方しっかり

唐あげ丸さんには刺激的すぎたんだね
そうだな・・

ヒデヨンの奴もう治ってると思うけどまわって行こうか
あっ

昼間見たやつがあそこに…
えっ…オレ…全然見えないよ

よし…こうなったら私の目を貸してやろう

目を貸す⁉

何だ
こいつは…

平気だぜ
腹は治ったぞ
お前の腹じゃないよ今何かがここに入ってきただろう
何も入ってこないけどよォ
急にたまんないくらいいいニオイがしてきてるのよォ
ニオイなんかしないぞ
これよこれっうく〜ったまんない
何としても食ってやるぞう
まっすぐ鳥霧山の山頂に行くぞ
ハアハア
何かに憑かれてるみたいだな…

ふう……
とうとう山頂まで来た…
あれ!!
これよ
これ これ

ああ……多分
あのおかしなものの
せいだぞ
しかし
何なのだろう あれ

これなのよーっ
ああ
いいニオイ

ヒデヨシの奴
……
あのおかしな
ものを
さわってるぞ

ザリ
ザリ
あっ
この音は
確か…!!
ええ…
ヒデヨシくんが
ザリザリなめる
たびに……
ザリ
ザリ
すげえなあ…
もう
4時間近く
休みなく
なめ続けてるよ

んっ…
何だろう
この気配は…

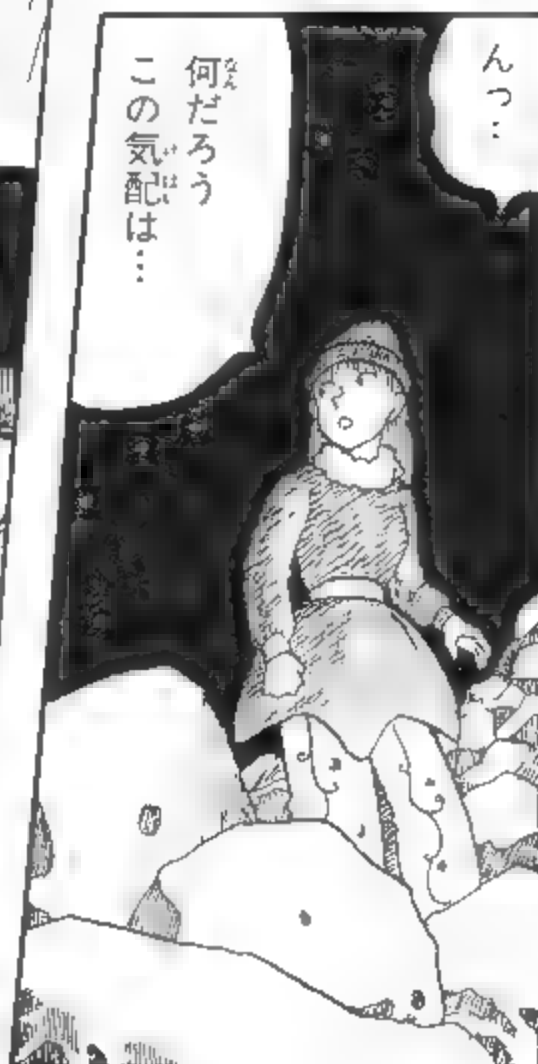
！

オーイ パンツ
いるかーっ
んっ

どうしたんだ
テンプフ?
スゲーんだよ
早く 早く!!

なんだ
この音はっ
ああ…
ホラ
あそこ
ザザッ

うっ

ズズ・ン
ザシン

きっ…桐王の木だ
スゲーッ
木がどんどん
鳥霧山を
越えてくるぞ
まるで
緑の河みたいだ

これは
いったい…

枯れかかってる木々が
アタゴオルの豊壌な
土や水を求めて来たんだ

そうか……

どうやら……わたしの
目に見えていたのは
桐王の木の「気」みたいな
ものだったのね
ズズ…

…そいつが
ヒデヨシに
取り憑いて……

ザリ
ザリ
ええ
ヒデヨシ君が
「導き」の役を
やっているのよ
ズ…

そうか…あいつ
土食ったり
毒キノコ食ったり
したからじゃないか

いいや
たぶん違うと思うよ
違う？

うん…私たちは
時々この土のことを
忘れてしまうけどね
ヒデヨシ君は

南腹乱魚

よってイカの足は
右から3番目が
一番うまいのじゃ

一番美味で
ある……と

論文って いつものタコ・イカの足か？
そうじゃ 祝杯じゃ
これから ヨネザアド生物学会に送るのじゃよ

今までずいぶん送ってるだろう
何か反応があったか

まったくない

論文と一緒に紅マグロ送ったりタコ一箱送ったりしてるのに何の反応もないのじゃ

そーいうことするんじゃないよ…

そういえばあと10日でヨネザアド生物学会が開かれるんだってな……このアタゴオルで
なっ

何だとォ
アタゴオルで
開かれるだとォ

ああ招待状が
オレんとこ来てるぜ
何っ
なんでパンツのとこ
へ来るんじゃあ!!

去年の夏
この森で新種の
カブト虫を
見つけたんで
文章を
送ったんだよ

ワシだって
毎月のように
送ってるのにっ
さてはパンツ
紅マグロ10匹も
送ったな〜っ
送るわけ
ないだろう

そういえば
学会には
南腹乱魚も
来るらしいぜ

えっ
南腹乱魚が
ホントですか

なんじゃ そのナンパラ ランギョって のは？
おめえ 南腹乱魚を 知らないようじゃ 招待状も 来ないよなあ

南腹乱魚は 世界最古の魚 生きた化石 なんです
絶滅してると言われて いたのですが ５年前 銀しぶき海でたった一匹 捕獲されたんですよ
ああ 南腹乱魚が 来るのかっ 楽しみだなあ

化石みたいな 魚なんて 食ったってマズイのに 何をさわぐのだ この者らは？

ところで アタゴオルが 会場になるって ことは：
アタゴオルの だれかが 研究発表を するんですか
ああったしか 金色の魚の生態を 調べてるクロモンさんだよ

クロモンって…
オレが金色の魚を
ねらうたびに
ジャマするジジイだな

9日後

ホホホ

あ〜っこんつは
クロモン君は
おるかね
スミレ博士
である
スミレって…おめえ
ヒデヨシだろう

ワシは明日
学会で発表
するもんで
忙しいんだよ
……何の用
なんだ?

明日の発表をワシに譲ってほしいのじゃ
このタコやるからさ

おいっ
コラッ何言ってんだっ!!

よろしい
紅マグロ一本つけようじゃないか
うるせえ帰れ帰れっ

聞きわけのないジーさんは
お眠だよー
うわっ
バシッ

その翌日
それでは開会します

私がクロモン君の恩師
ホシノミヤ・スミレ
である

パチ

パチ

パチ

あいつ!!

クロモン君
急病のため
私が代って
金色の魚についての
研究を語ろう!!

ホシノミヤスミレ…どこかで聞いた名だな
会長！ホラ いつもアタゴオルからワケのわからん文を送ってくる…

ああ…かじりかけた紅マグロとかタコとか送ってくる…
それがあの男か

あれヒデ丸

えへっまず
これがアタゴオルの蛇腹沼に住んでいる金色の魚の図である

こやつは実に利口なやつでな全身キラめかせながら沼から季節の変り目に飛びはねるのだ

金色の魚か
……そんな種が実在するのか
季節の変り目に……活動が……

次にこの図が蛇腹沼じゃが
コン
コン
この地点でしびれ薬を撒き散らし金色の魚にかぶりついたのじゃ

えっ
かぶりついた!?
そうとも!! その瞬間「ジュッパーッ」と液が口にあふれてタマランかったのじゃ

しかし金色の魚はエライ!! しびれ薬でしびれながらも 尾ヒレでワシをぶったたいて逃げ失せたのよっ
こんなことなら丸太で一発とどめをさしておくべきだった

そんな貴重な魚をなぜ そっと遠くから観察しないんですかっ
そーだ

遠くからの観察で何が解ると言うのかね
とっつかまえてかぶりついてこそ真実が見えるのじゃ

現に金色の魚にかぶりついた時ワシの舌が味わったものは 今もワシの舌に蘇る

それを証明しようではないか
これは ワシのヨダレだが

一方は紅マグロのことを考えた時のヨダレでえ
そしてこっちは金色の魚を想った時のヨダレじゃ

バカヤロウ
学問と食欲を一緒にするなっ
えーっただいまより第2会場で南腹乱魚の公開を行ないますので

いよいよ
お目当ての
魚だぞ
はるばる
南腹乱魚を
見に来たのだ
行こう
こらーっ
ワシの話はまだ
終っとらんぞ
これから
核心に入る

も〜だれも
聞いてないよ

聞いてなければ
追いかけるまでじゃ

えっ

よいかな
金色の魚の
ジュワーッと
うるさいな
もーっ
スゲーッ

あっ

圧巻だな
スゴイ

おおっ…巨魚魚魚

これが南腹乱魚です
かつて世界中の海や湖に生息していたわけですがこれが最期の一匹と言われています

海や湖にいた？

ええ　淡水でも海水でも生きられる生物なのです
淡水でも海水でも生きられるのになぜ滅びそうなんだろう…

原因は解りませんが…この魚はナゾが多く繁殖の形態もつかめていないのです
どうやって卵を生んでいたか…研究中なのですが…

研究するには包丁一本!!
腹の皮かっさばいてバラバラにして調べればいいいんじゃ

あんたはこの魚がどれほど貴重なものかがわからんのですか

痛いほど解っておる
最期の魚じゃ実に貴重な味じゃ

何を言ってるんですかっ
ワシの目には一目瞭然!!
この年とった魚は食ってもマズイ
コラ
食うとは何だ

なんじゃね君たちは?

オレたちは南腹乱魚保護組合の者だ
たった一匹しかいない貴重な魚を食うとは何事だ
発言を撤回しろ

たった一匹が…いけないのならこやつが一億匹もいたら食ってもいいんじゃろう
だめだっ
この魚は食ってはいけないのだ
一億匹いてもなっ

どうして……いけないいんですか?

この魚は実に利口な魚なんだぞ
知的な魚を食うなんて野蛮な猫のすることだ

するとバカな魚は食ってもいいが
知的な魚は食うなと言うのかね

そっ…そう言ってしまえば…でもオレたちは魚は食わないいし肉も食わないぞ
そーとも菜食主義を貫いてるんだ

貫き方が甘いぞ諸君
野菜だって米だって麦だって植物という植物はみーんな命じゃよ

魚を食わないなら野菜も食わず
水と土や砂を食べる「土食主義」になりなさい

何言ってんだバカ野郎話にならん
ワシは時々空腹になると土を食べるんじゃどうだ一緒に食いに

酸性の土に
パランと石灰なんか
かけたのを食うと
美味なんじゃ
土食事を体験して
いただこう
うわっ
放せーっ

……やっと
出て行ってくれたな
しかし…不思議な
魚だなあ……
あの頭のコブ
みたいなものは
何ですか？

長年観察してるんですが
解らないのです
気泡も吹きませんし
呼吸器官でも
ないですし……

南腹乱魚という
名の由来は？

はっきりしたことは
解りませんが
腹部の赤い斑点が
乱れていることから
ではないかと…

くすぐった？

ああ 体をくすぐって
口を開いたところで
たっぷり土を
押し込んでやったのじゃ
そりゃあ
やりすぎだよ
ワシもたっぷり
食ったから おあいこよ
土食うのは
いいけれど
南腹乱魚だけは
食うなよな

あんなヨボヨボで
ブ厚い皮のじじい魚
食ってもマズイぜ
ワシが学問のために
食いたいのは
金色の魚じゃ
いっ…痛てて…
急に腹が
バカだなあ 土なんか
食うからだよ

オイ 薬あんのか
ワシは薬は飲まん…
寝れば治るのじゃ
うう痛てて…

最期の一匹だとォ
だれにも
渡さねぞーっ
バタン
はぁ〜っ
がまんしてるのが
つらかったわ
でろ
でろ
でろ
でろ
……なんか変だと
思わないか
あの腹痛
ああ…
パンツもか
あいつ少しでも
腹が痛くなると
もっと弱々しくなるんだ
「おぶってくれえ」とか…
…たく
…へたな芝居して…

こうなったら
先回りして
学会に知らせよう

えっ あの男が
これを食いに!?

くっそう
土食わされた
敵をとってやる

返り討ちに

し…て……

しまっ た……
眠り花粉……

やめ…るんだ…
ヒデ…ヨ……

やめるわけ
ないでしょう

オレの腹痛を
信じないとは
友だちがいのないやつ

ぐ〜っ

食ったら…
アタゴオルの
恥だ…ぞ……

恥など怖くないわ
怖いのは
空腹だけよ

うへえっへっへっ

南腹乱ちゃん
長生きごくろーさん

ポン

今
食って
やるからねえ

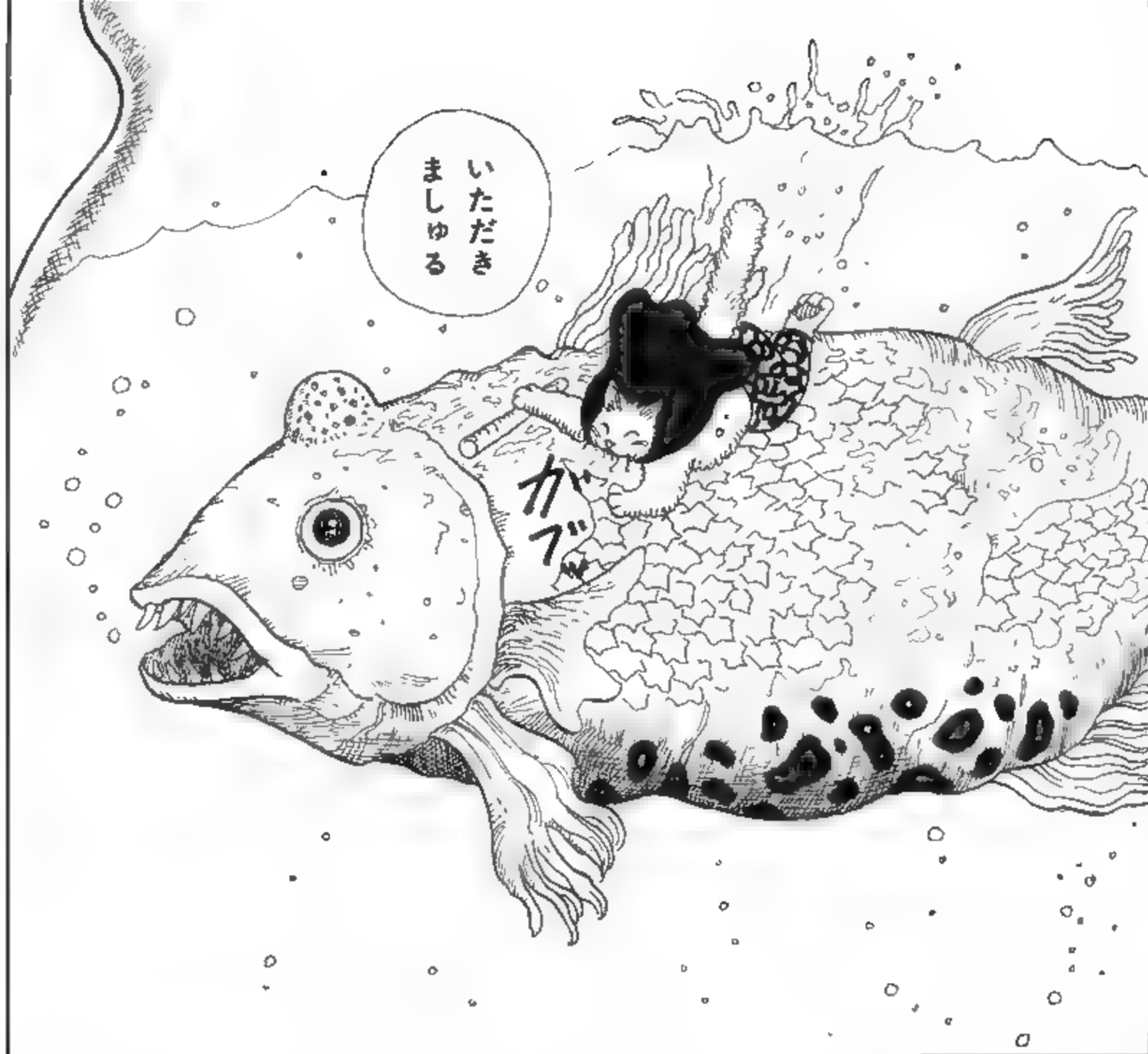
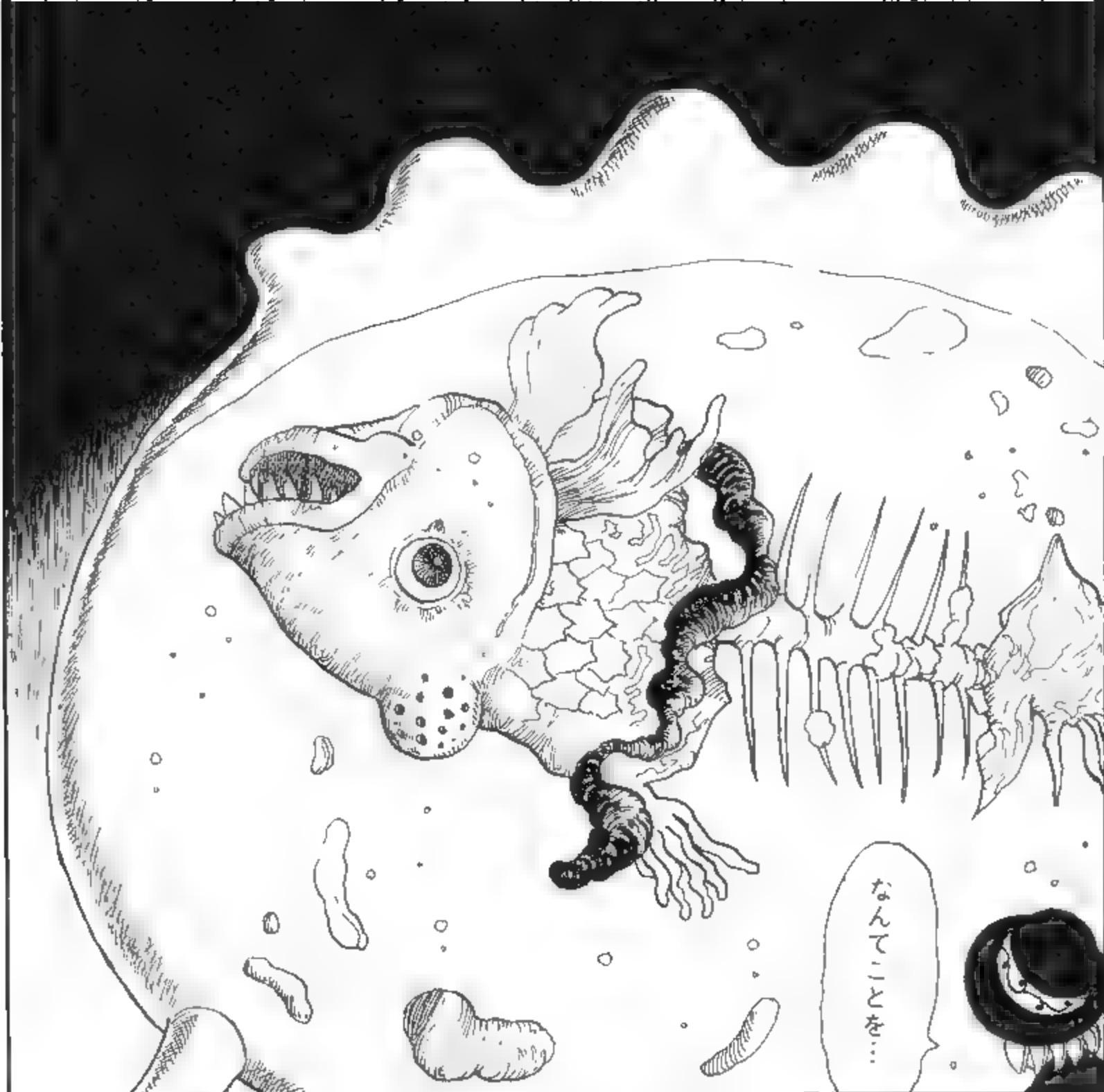
いただきましゅる

ガブッ

なんてことを…

がっ学術的に
貴重な宝を…
あああっ

会長に
知らせな
ければ…
ああ…悪夢だ

しかしすごい
悪臭だな…
ヒデヨシのやつ
こんなニオイの
肉を食ったのか

フフッしっかし
ニオイはいいけど
味はたいしたこと
なかったな
でもこうして
氷室に隠しておけば
当分 食うには困らないぜ

さてと…
ほとぼりが冷めるまで
鳥霧山にでも
隠れてよ〜っと
うっ

痛でで…

こっちから
におうぞ
ガサ
ガサ
あ

痛でーっ
痛で〜っ
よ〜っ
パンツ
助けで
ぐれーっ
今度は
仮病じゃない
みたいだな

だーれも
助けないよ
あんたは
なんという事を
してくれたんだ
ひとつの種を
滅ぼしてしまったんだぞ
あ〜っ痛いのよォ
助けてほしいのよォ
うっ
しかしスゴイ
ニオイだな
よくもまあ
こんなニオイの
魚を……
ぶっ
痛でーっ
ボコッ
あっ

痛でーっ
これは!!
バタ
ザザ…!!
ズルズル伸びて行くぞ
どこへ行く気だ
それから3日後
フフフ
キュルキュル動いてるぜ
スゴイことになったなあ
プク
プク
おっ

スッ
わおっ

ポチャ
パチャ

生れた
生れたぞ

なんというか……とにかく感謝したい
なんのなんの絶滅しそうになったらいつでも食ってあげましょ
ポチャ

ところで あの時の肉はみんな食べたのですか
うへへ 実は隠してあるのよォ

それをもっと食べてくれませんか

いいけどさ
あとで腹痛く
なるんだぜ
南腹乱魚を
保護してる
連中が食べたら
どうですか?
それが……
あのニオイが
すごくて
食えないのです

んじゃ…
たのみが
あるのよ
たのみ?

…ワシを
ヨネザアド生物学会の
会員にしてほしいのじゃ

かっ会長
それは!!
よっ…
よろしい
でしょう

それから
一カ月
ずいぶん
大きく
なりましたねえ
こっちよ
こっち
パンパン

ヒデヨシ君にずいぶん慣れているんだね
ああ・なにしろあいつの腹から出てきた魚だからなあ

南腹乱魚の腹乱ってのは…
食べた者の腹が痛くなってそこから卵が生れるってことだったのか

昔の大型生物はあの魚を食べていたんだろうが…

今となってはあれを食べるやつはヒデヨシくらいだろう

あいつの異常な食欲もたまには役にたつんだなあ

あの頭のコブは何なのかな

学会で調べてるんだけど解らないんだよ

オッ

何だ
これはっ

今度は
あっちから
出てるぞ

すばらしい…実に不思議な旋律だっ…
しかしあの光の紐はいったい…？

会話してるんだ

えっ…会話!?
ツキミ姫 話の内容が解るのか？

オーイ
こらっ
どうしたんだ
バシャ
バシャ
海だ…海に行くつもりだ
西に向ってる
……てことは

危険を察知したんだな
ヒデヨシの腹から
生れたにしては
相当利口なやつらだな

でも
ヒデヨシ君
どこか寂しそう…

クソーっ
こんなことなら
食っとけば
よかった
タラ
タラ

こうして
蛇腹沼は
静かになった
のですが
それからは
時々

海からの便りが
郷里へとどくのです

脈を望む

その中にあるだろう
これか

待てーっ
待てない
わーっ
ドドドッ
サンマは
盗むに
かぎるのよー
あら

オーイ パンツ
本ばっかり読んでないで

たまには魚でも
盗むといいぞォ

何言ってんだ
このやろーっ

盗みをやって逃げる時
あいつ 一番
生き生きとしてんなあ

バイオリン川

いいなあ…
唐あげ丸さんの
秋の新曲

唐あげ丸さん
ほんの気持ちです
受け取って下さい

いつも
ありがとう

すばらしい

唐あげ丸さん
最高!!

くそーっ どこへ行ったんだ ヒデヨシの野郎
もーっ しつこい オヤジ

サンマ4匹で… おとなげないヤツだ

んっ

唐あげ丸さんだ…
しかし テンプラや 唐あげ丸さんが どうしてヒデヨシなんかと 友だちなんだろうなあ
よーし 明日は紅マグロだ

どうぞ
ありがとう
あら

オレが 苦労して サンマ 手に 入れてんのに 唐あげオヤジのヤツ タダでもらってるぞ

親方
秋の新曲は
すごい反響ですね

どうもしっくりこない
…何かが足りない…

えっ
あらら
また始まった…

何をぶつぶつ
言ってんのよーっ
こんなに
もらい物
しちゃってサーッ
あら

欲しけりゃ
あげます
わお

……

おかしいな…
どうも
しっくりこない…

やあ
こんにちは
あら
唐あげ丸さん

水に手を浸して
「しっくりこない」
とは…
どういうこと
ですか
うまく説明
できないんですが

水と一致しないのです

水と一致しない!?
ええ 秋の終わりの水のヒンヤリとした感触がピタッとこないのです

まるで 胸の中に砂地があって水がスウッと消えてしまうような…
…似てる

私もその感じなんです
秋の新曲「カニの瞳に映る三日月」の旋律が何かピタッとこないのだ

どうしたらいいんでしょ テンプラ君
僕は胸の中に似た風景に立ってみようと思うのです
胸の中に似た風景

ここですか・・
まるで砂漠ですね

ええ
しかしこうして見ていると水のニオイがまったくしないなあ

あれ

何やってんだいパンツ
やあテンプラ…調べもんだよ

調べもの?
ああこれを写してるんだ

なんだ…これ?

わからん
オレのポッケに本があるぜ

「アタゴオル・結…
界…考」
結界考⁉

その本の中に
〝この場所が
結界ではないか〟
そして
〝この紋様が
結界と関わって
いるのではないか〟
と書かれてたんだよ

結界ということは
ここが「聖なる地」と
いうことなんですね

古代の
聖なる地域か
………
たしかに
こうして見ると
胸に迫るものが
あります
空気も乾いて
聖なるニオイ…

にしては
何か
生ぐさい
ニオイ
あらら 俗のかたまり

うまいのよーっ
うまいのよ〜っ

オーイ
ヒデヨシ
ヒデ丸
あれれ…
あっちに行って
しまいますよ
うまいのよォ
オレのものォ

しょーがねえなあ……
あいつ 食い物
持っているから
近づいてこないんですよ

えっ
どういう
ことですか
たぶん
僕たちに
取られると
思ってるのです
ケダモノの
習性ですよ

すごい
紅マグロ1匹
食っちまった

あ〜っ
さて ヒデ丸くん
オレは去年の冬
食い物がなくて
困ったのです
・・そこで

今年のオレは
知恵を
出すっ

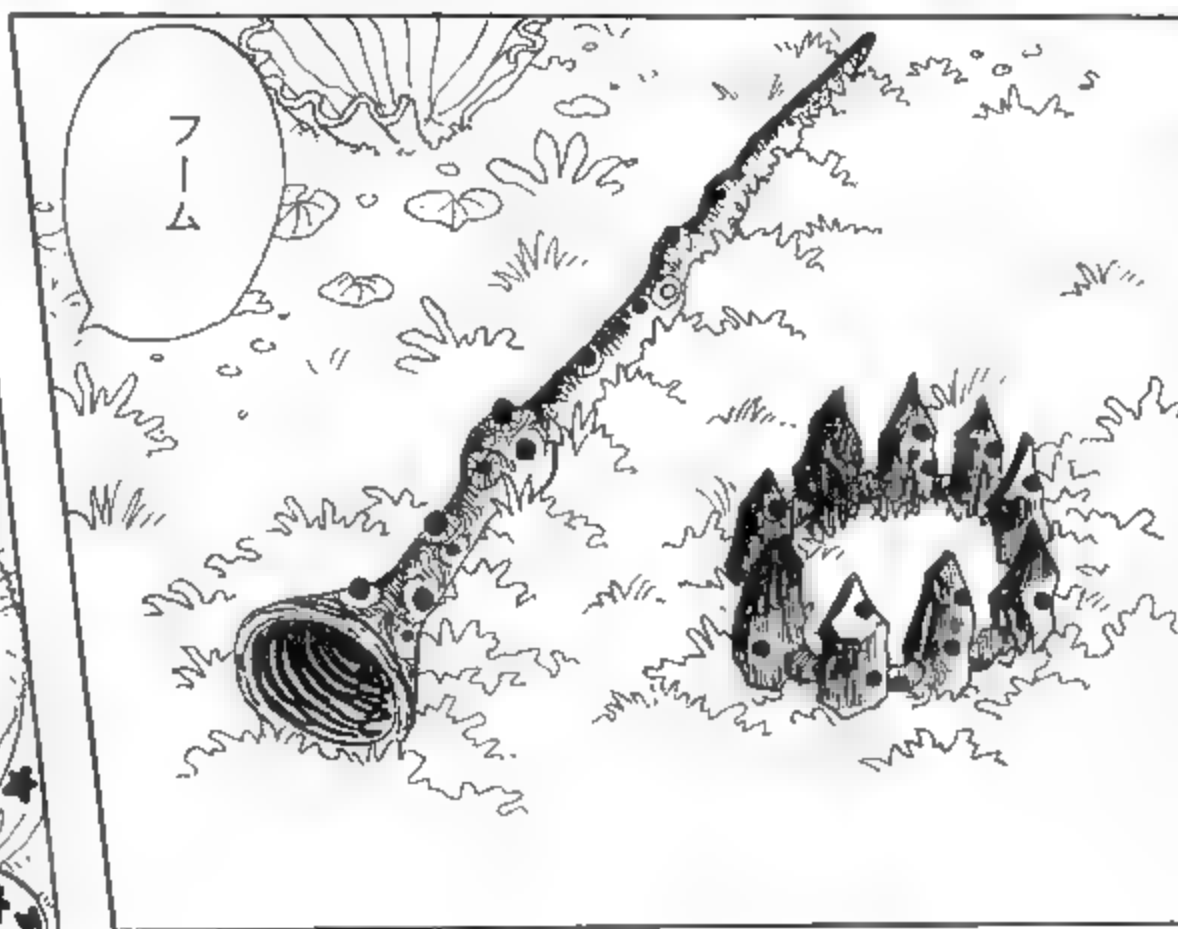
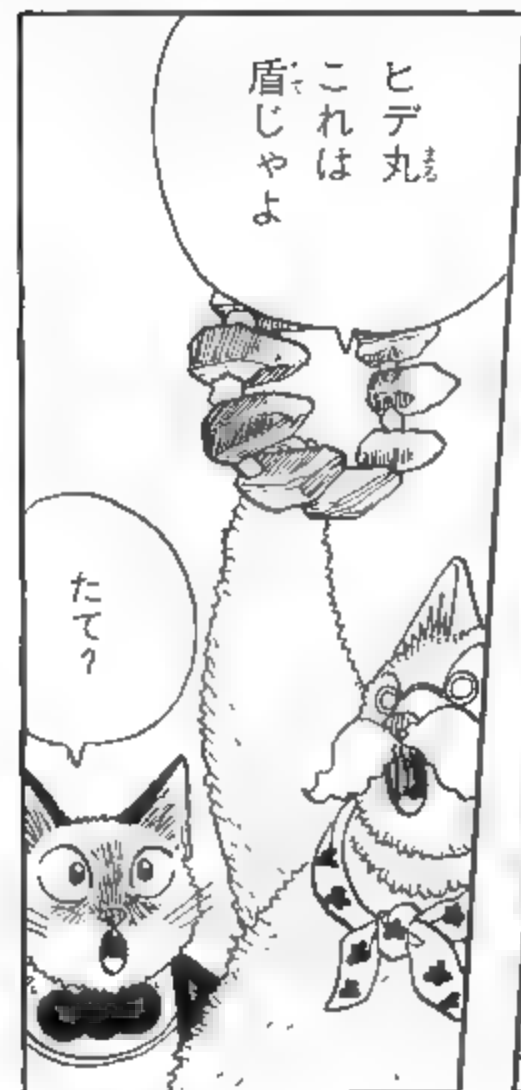
何やってんですか 穴なんか掘って？
まさか 冬眠!!
違うのよォ 食い物を隠すのよ
えーっ 腐る
腐らない
あれ
なんだ これは？
フーム
なんだ こりゃあ
?
?
?
?
?

よーし ヒデ丸
メガネと 髭を たのむ
はい

どわははははっ

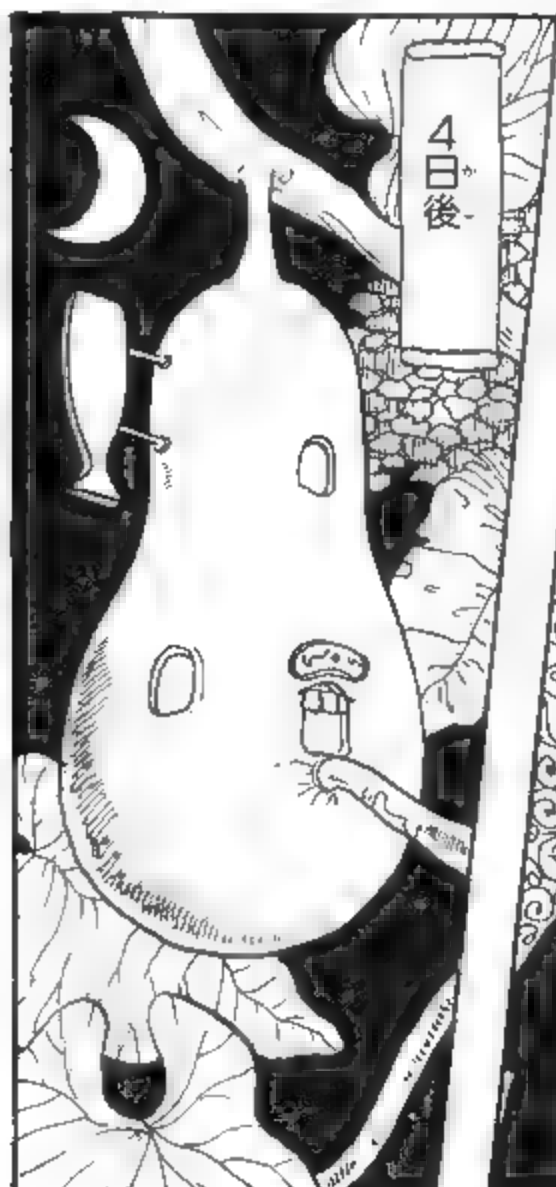
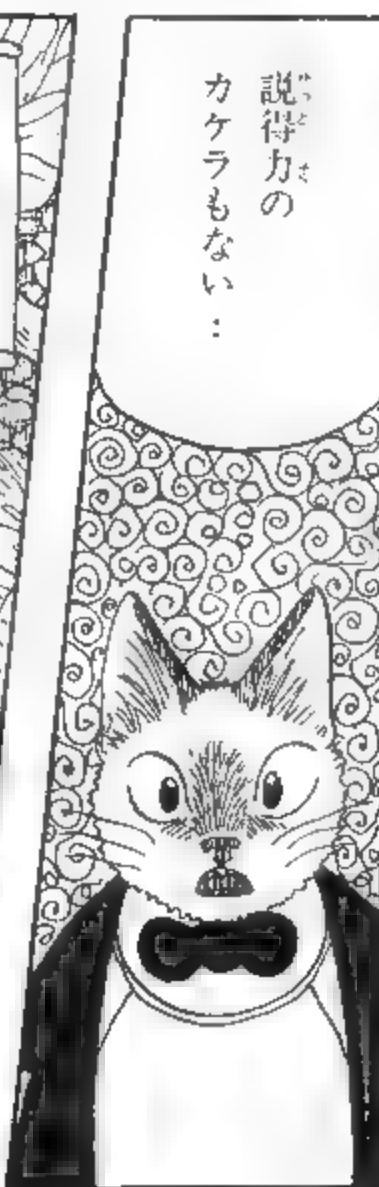
でかした ヒデ丸 大発見じゃ
博士 これは いったい なんなのでしょうね

ワシの 大直感は すでに真理を 見抜ききって いる

ヒデ丸 これは 盾じゃよ
たて?

こうして
腕にはめて
相手の剣を
ガシッと
止めるのじゃ

すると
この棒は
なんなのですか
それは
戦い中の
食器だよ

戦い中の食器?

いかにも
戦い中でも
腹は減る

そんな時
古代の民は
この穴に
ゴハンを盛っておき
戦いながら
食べたのじゃ
こんな感じで

説得力の
カケラもない…

4日後

水と自分が一致する感覚って
相当難しいよ

前は簡単にできたのになあ

感覚は必ず
歳月の中で滅びていく

そして再生はあり得ない

生きていくというのは
そういうことじゃないのかねえ
しかし天文台長

あの感覚は
失っていきたく
ないんですよ

読めたぞ
テンプフ
えっ
読めた!?

「聖盃を手に
牙の輪の下で
脈を求めよ」

絵文字の一種
カゾフ族のに
近いんだ…
だいたいの意味は
こうだ

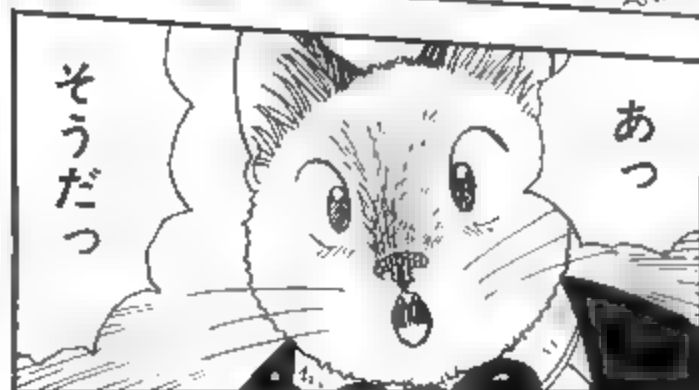
脈?
脈を求めるって
どういうことだ?

どうもわからない…
だが道具を使うんだな
・聖盃かあ
「牙の輪の下」って
なんだろう
…こんな場所
知らないぜ

牙の輪？
あれ……牙の輪!?

ヒデ丸 牙の輪を知っているのか
いや、あれ どっかで牙みたいな輪を……
あっ
そうだっ

おのれっ これでもくらえ

ガシャッ ジシッ
おっと あぶない

サッ
何ワケのわからんことをやってんだ
たったひとりで
ガッ

そうか
そして
これが
聖盃って
わけか
それは
茶ワンじゃよ

これが
発見されたのは
あの砂地の端の森か
……ようし
行ってみよう

「聖盃を手に」

「牙の輪の下で脈を求めよ」

よーし行くぞ

ぺっ
なんだ このこの大俗パンツ
ダメだな この方法…

僕にやらせてくれ

脈を望む

…ムダよォ

やっぱりダメですねえ

…ん〜っ…

もう一回やってみるぞ
そりゃあいいけど…

も～っ
何遍やっても同じじゃ
それは 茶ワンだぞ

心より望む

水と僕の一致を

やっぱり脈の意味がわかんないとムリだなあ
脈かあ… 脈といえば 葉脈…鉱脈… 山脈……

もっとあるぞっ 天脈、森脈、三日月脈
なんですか それ!?
あっ

テンプラ君の体から!!

水が吹いてる

えっ
…水って…
水なんか見えないぞ

ツキミ君テンプラは鯨じゃないのじゃよ
水を吹くわけねーのじゃな

あっ
ああ

ザー…
これは!!
ザザッ

そうか…

…脈って…
水脈のことじゃ
ないか

ええ、「水脈を望む」…
たぶん そうだな

…昔の民はこの地を
水と自分を一致させる
ための場所にして
いたんじゃないかな…

ツキミ姫
テンプラ君は
まだ水を?
うん

致した・・・

水と僕はひとつ・・・・

私の体からも
水が吹きあげてくるな
えっ
ツキミ姫も!?

いいかいヒデ丸
んっ

…あっ…

ああ

これが……
水との…
ホラ
感覚…
…うわあ

この星を循環する気分!!

水の中に
意識が移っていく…

水滴の中に…
今湧いた
新しい水の中に・・

あっ

ん
ガラ

どうした
テンプラ
万歳なんか
して？

なっ…なんてことだ・・

ズッ

ズズッ

おわっ

その翌日
おっ
テンプフ
お昼寝か

くにくに
動いてますね
水の壁じゃ
水壁なのじゃ

テンプラ君なら
ここですよ
んっ

ホラホラ
この水滴の
中なんです
ホントか

あらら水滴が
蒸発してくぞ

ああ…
体を離れて
やっとわかる…

僕が「生きてる」って
いうことは

この星を循環している
途中なんだ……

渦の三角

種ーっ種

の〜っヒデ丸
早くダンゴ食いに
行こうよ〜っ

ちょうど
5銀貨あります
はいよ
ありがとー
あーー
だめだめ

ワシにおごる
ダンゴは
どーなるんじゃ

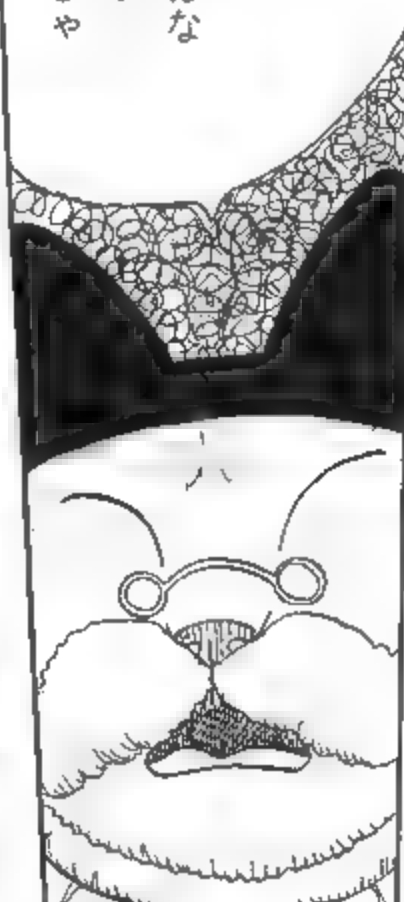
きょうは
ムリです

博士
だって見て下さい
この本は
「ナスナ調査誌」!!
幻の本なんです
ううっ
ナスナより
ダンゴじゃ

博士…
本当に
泣いてますね

涙とは
こーゆう時に
流すものじゃ

んめのじゃ
んめ〜のじゃよォ
すごい本だなあ…
なっさけない
おやじだなあ
ホラ　オレが
めぐんでやるよ
ホホホ
なんだろう…この
「ウズの三角」!?
「ウズの三角」
ええ・
ナスナ時代に
作られた
品物の
ようです

ひょっとして
ダンゴ製造器
じゃあ
ないだろうな
その発想は
あまりに
口から出まかせ
ヒデ丸
ワシがダンゴを
せびったりしたのはな
み～んな冬の野郎が
なまけおったからじゃ
冬が
なまけた!?
そーとも
冬がなまけて
雪が降らねえ
もんだから
ワシの友だちの
ヒデヨシ君は
腹へって腹へって
死ぬとこだったのじゃ
くそーっ
冬の野郎!!

ほんとに
今年の冬は
ほとんど雪が
降りません
でしたねえ

でも まあ
雪降しのない冬ってのも
いいもんじゃないか
やあ
テンプラ君

テンプラ、
オレはな!!
雪が食えないから
死ぬとこだったんだ
ぞーっ

雪も食えず
金も無いわりには
さっぱり痩せないのは…
どーした訳だい

枝の芽や草の根を
食っていたのさーっ

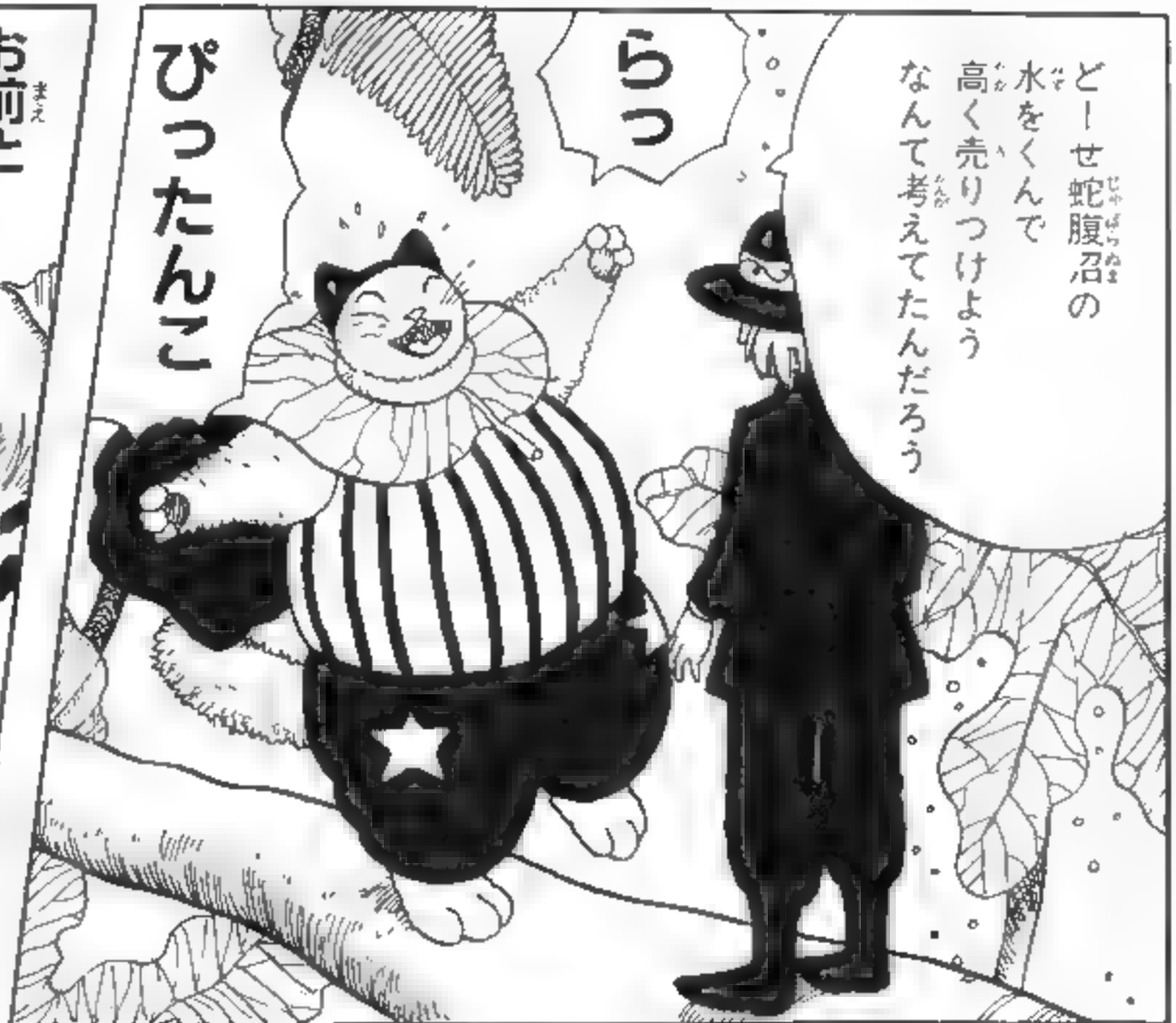
たしかに
お前の家のまわりの
木々は
皮がかじゅれたり
してるもんな
み〜んな
冬のせいだ
雪が降らねえからだよ
ホントに
困った事じゃ
雪のない冬ってのは…
あっ
米俵オヤジ
お仲間
お仲間よっ
やっぱ
雪の味は
格別よねえ
ワシは雪が
食いたくて
言っとるのでは
ない
米じゃ
米のためじゃよ
米のため?

いかにも
今年は鳥霧山にも
雪がほとんど降らず
これでは
春から夏にかけて

ワシら農民は
水不足に苦しむ
ことになる

どふふふ

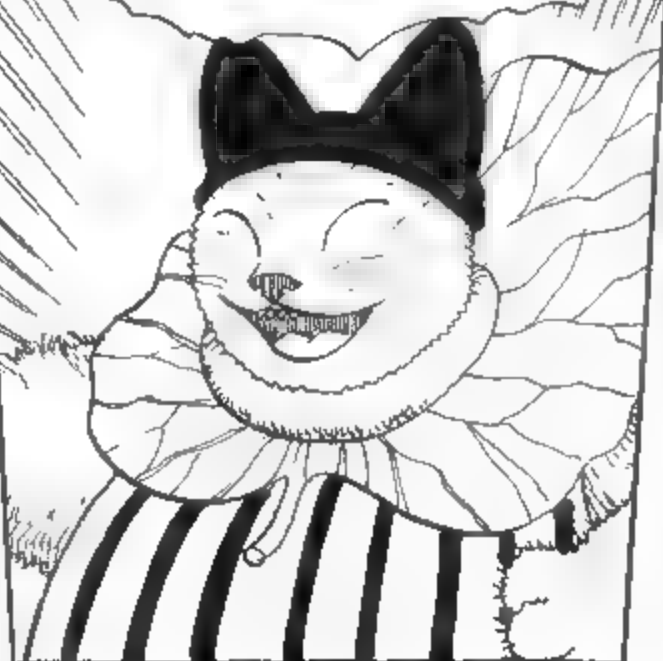
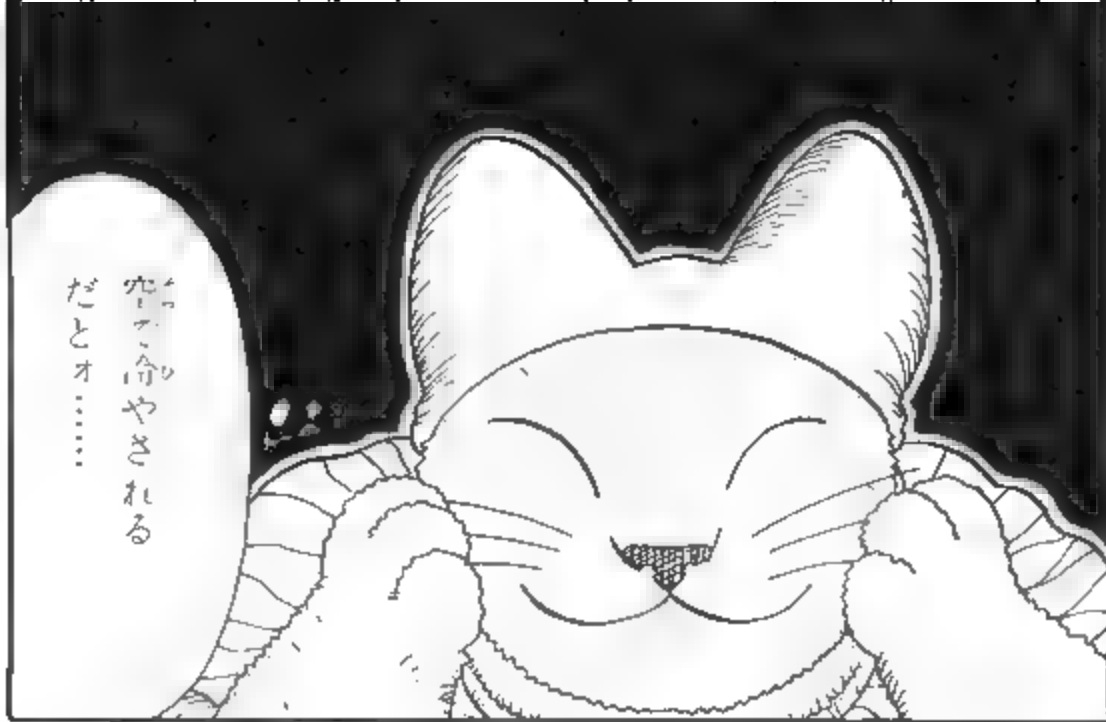
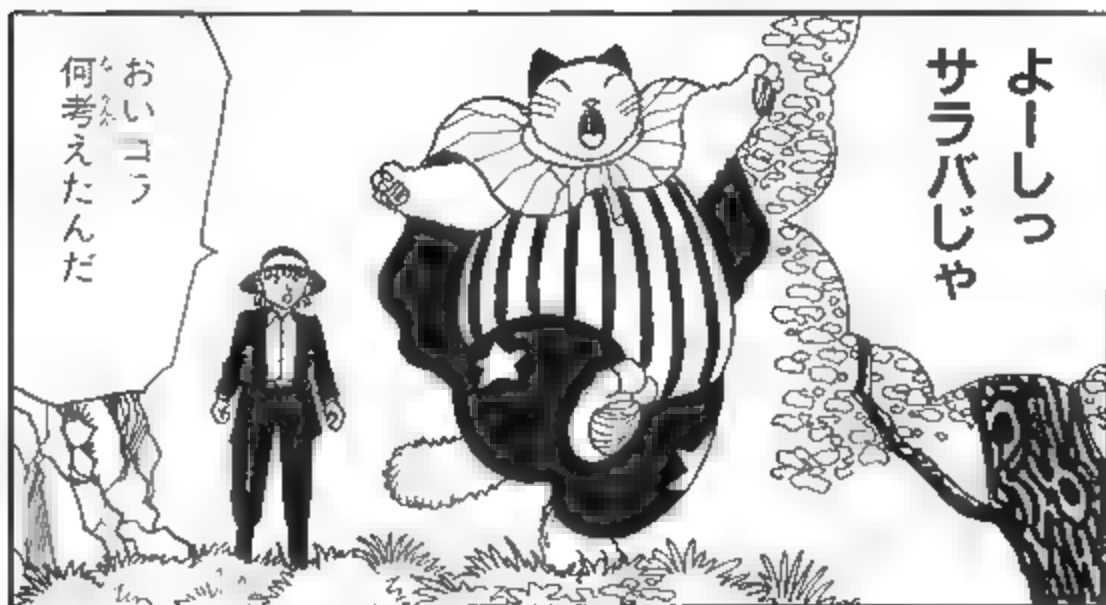
何がおかしいんじゃ
ヒデヨシ

どーせ蛇腹沼の
水をくんで
高く売りつけよう
なんて考えてたんだろう
らっ
ぴったんこ
お前と
いう奴は
苦労する者の
気持ちがわからんのかっ

すあ〜っぱり
わからん

水不足では
米不作になるんだぞ
お前が秋にワシらの
田んぼを襲っても
盗む米は少ないぞ

ろっ

あの盗んだ木を
たらふく食ってるから
冬は小食って
ごまかせてるのよね

ようし
オヤジ!!
オレが
どっさり雪を
降らせて
やろうじゃ
ないか

何言ってんだ
冬は終わったん
じゃぞ

オレはヒデヨシだぞ
オレには不可能がないのさっ

しかし…
出来もしない事を
出来たつもりに
なれるとこが
すごいよなあ

なあテンプラ
雪を降らせる法
知らないか
秋になったら
米俵一つやるぜ

降らせる法なんて
ないよ
だいたいな
自然を思いのままに
しようという考えが
おかしいんだよ

ぺっ
ジジィくさい
考えは
ダメだね!!

そーんな事じゃ
なぜ雪が降るのか
知らないよなあ

雪ってのは
湿った空気が
大空で冷やされて
結晶して降って
来るんだよ

空で冷やされる
だとォ……

よーしっ
サラバじゃ
おいコラ
何考えたんだ

コラ
うちの
商売道具を
借りる
のよーっ

…へーっあいつ…
もう春なのに
雪を降らせるのか
しかし
どんな方法で
やるんだろう
さあ

おっ

パタ
パタ

相変らず痛々しい発想してるな〜っ

オーイヒデヨシ
空を冷やして雪を降らすのかあ

そーよっ絶対降らすのさ〜っ

あらだんだん空が冷えて来てる
も少しで降るかもしれんぞ
うへへ
降るわけないよ
ヒデヨシあきらめろよ

ボケーッと見てないで
お前も帽子でもふれよっ

も〜っ冬が来るまでふっていな!!

渦渦渦ーっ
ブッ
あれれ 渦がどうかしたのかい
やあ パンツ君

…フーム… すごいなあ よく見つけたね ナスナの本
浮き島通りで見つけたんです

「渦の三角」…!?

「いにしえの王の命により
くねりの沼の奥のアニレ木の
下にうずめた〃渦の三角〃」

「ナスナの
喉の染みついたる渦」

「喉の染みついたる渦」…か
不思議な言葉だなあ

たぶん
くねりの沼は蛇腹沼
のことで
アニレ木ってのは
黄根の木のこと
なんです

うん
みごとな
推理だな
それで黄根の木を
掘ってるのか
ええ

渦が私を
呼んでいるっ
渦は生命の
始まりの渦
ザバッ

唐あげ丸さん…作曲に行きづまっているのかい
ええっ そこにオイラがつい「ナスナ聞誌」のことを話したもんですから…

渦の三角かあ
しかし蛇腹沼のまわりにはえてる黄根の木ったら相当あるぞ

はひ〜っ

こんなことしてたら、腹がへって死んじまうわ
よ〜し

今年の冬お世話になった地下食料庫にいくかっ

どふふ

パンツの家の食料室の生イモのおいしさよ

しかし、パンツの奴、本ばっかり読んでるくせに
なんでこんなに食い物貯められるんだ?

テンプラの家からかな・・

まさか
あいつ、どこかの
食料倉庫から
ドロボウ ニャ・・・

ううっ食った食った

しかし掘った穴は迷路みたいなのよねえ
こっちだったかな

んっ

何んだ
これは

…いいのかい
唐あげ丸さん
ほっといて
ええ
オイラは
パンツ君ちの
コーヒー好き
なんです

あれっ……
ヒデコシの声が
かすかにするぞ

おっ
ボゴッ

ゴゴゴ

あっ

ズッ
ヒデヨシッ

しっかりしろっ

どうしたんだいったい？
わっパンツ

めっめっ…迷路ごっこして遊んでいたら
輝く壁があってよォ
そこの穴に首つっこんだら動き出したんだよォ

パンツ君…

これ…「渦の三角」じゃないですか
ああ・どうやらそのようだな

こんな物がオレの家の前に埋まってるとはな

何なのでしょうこれ
…妙な光のようなものがさかんに吹き出してますよ

これはなナスナのお風呂さんじゃよ
なにしろ中はとっても熱いのよ

あくる日の朝
おきろよヒデヨシ
カン
カン
カン
まーだ暗いよ〜っ

もう午後だぞホラホラ

うるさいなーっ

どう
なっちゃったの
すあっ

きのうの夜中から雪に
なったんだが……

巨大なかまくら
みたいに
積もったんだよ

オオッ
美しいっ
巨大な
かまくらの中に
風景が入ってる
なんて

でも
日差しのせいで
だんだん
溶けてくるな…

あっ
だれかが
唄ってる

なんて…
すばらしい
旋律!!

ああっ
結晶……

結晶の雫から
聞こえる

ナスナの喉の
染みついたる渦って…
この唄声のする
結晶のことじゃ
ないか……

やっぱり
この大雪は
あの「渦の三角」の
せいだったのですね
ああ…たぶん
ナスナの王は
季節をこえて
この唄声を
聞いていたんだろう

ひとつの声が
凍って
雪の結晶の旋律
になってるんだ

ハア
おお
旋律が
変わり出した

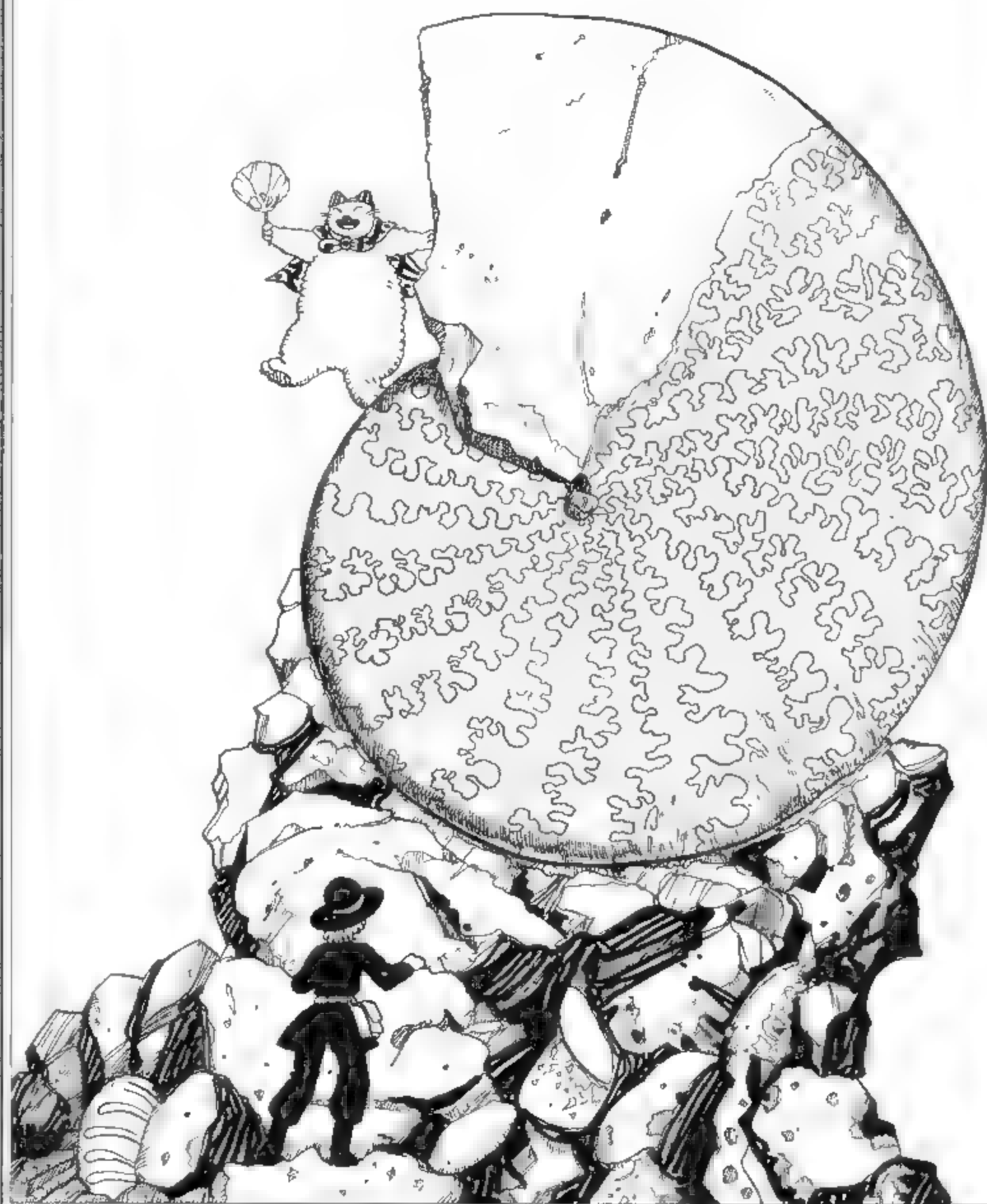
太陽の
熱で
結晶が溶けだしたんだ

ああ
お日様が
指揮をして

まっ白な交響曲が昇っていく…

かれいど・すこうぷ

ミーン
ミィーーッ
暑ーーっ もーダメだ
ホレ もう少しだぞ

ザボーン

しょうがない奴だ
ガマンのカケラもない…

しかしツキミ姫の風鱗キノコのおかげで
夏はずいぶん涼しくなったな

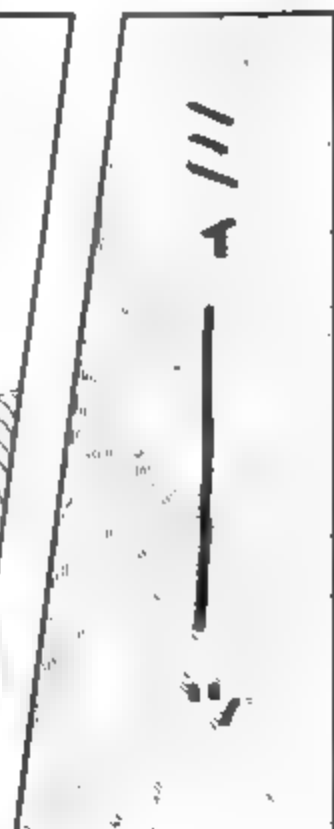
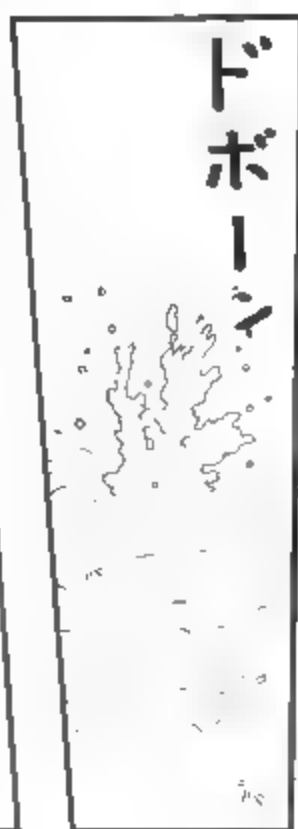
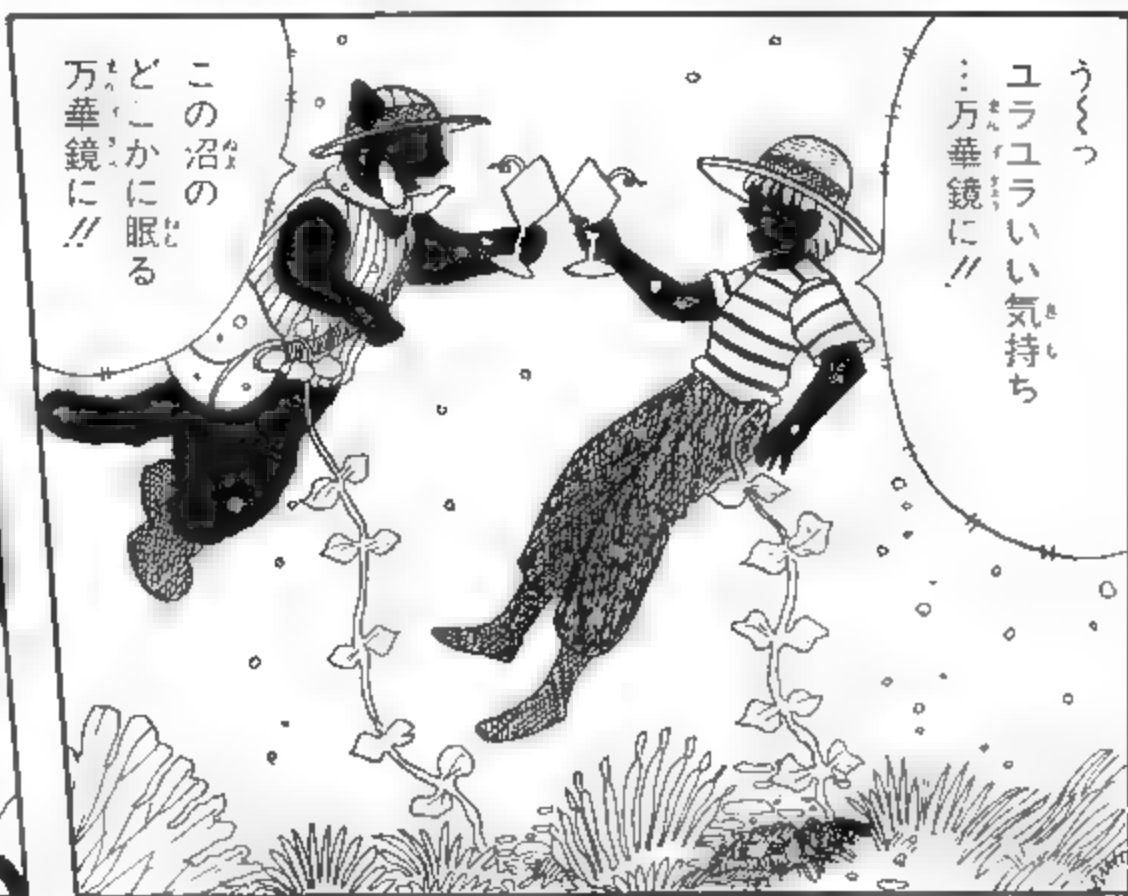
ああ、それに万華鏡探しもできるようになったしね

ミィーーーッ
この辺なら真下だろう
よし…

ドボーン

あれっ もう飲んでる

正調冷しビール飲み――っ

いらっしゃい

オレが昔、
3日も探して
見つからな
かったんだから
ないのよーっ
古代の物を探すには、
気長にやることさ…

しかし「この沼には
万華鏡が沈んでいる」
という言い伝えが
あるだけで…
手がかりは
まったく
ないんですよね

ああ…
だが、言い伝えには
もう一つあってね
「けっして
手に入れることは
できない」
らしいんだよ

「けっして、手に入れることは
できない」…？

うん
そうなると
ますます
探してみたく
なるだろう…

なあ、そんなトンカチなんかでやんねーで火薬玉使えばっ
うるさいなーっあっちへ行ってろよ
あうん
やーっみんな
万華鏡探し!?
ようツキミ姫
どうしたんたいその水草
さては食うつもりだなーっ
食べるんじゃないよ

家に水槽作って、水草を育ててみようと思って…

それ、オレも何度かやってみたんだけどむずかしいよ
むずかしい…!!

ああ、その黄色のスズカケ草も青いユラギリ草もこの沼にしか生えてない奴でね
ユラギリ草はいくらやっても5日くらいしかもたないよ

5日くらいかあ……
ようし、それでも挑戦してみよう

らっ

船だ
アタゴオルの船じゃないみたいだな

んっ
ザバッ

おんや〜っ
貴方たち
ひょ〜っとしたら
ヒデヨシさんにテンプラさん

そうだけど
あんたは誰なのよーっ

ヒデ丸と、兄の
唐あげ丸が
お世話になって
おります
私、唐あげ丸の弟、
腐床丸であります

唐あげ丸さんの
弟!!

死っ

何が何んだか
すあ〜〜〜っぱり
わからん

死んだはずじゃ
なかったのかーっ
鷹床ちゃーーん
生きてたんだよ
兄ちゃ〜〜〜ん

青猫島で床屋をやっていた時
ふたりは
桃色三日月の夜に興奮して
鷹床丸さんが
夢底河に落ちて行方不明に
なったのです

私はそのあととなりの島に
流れついたんですが
記憶がサッパリなくなって
兄がいることすら
忘れておったのです……

ところが一カ月前
万華鏡の本の中で
鷹床丸さんの顔を
みつけて、オイラ
手紙で知らせた
んです
万華鏡の本？

私、収集家でありまして、特にバリカンと万華鏡に力を入れております

アタゴオルに来たのは兄に会うことが第一の目的
そして第二の目的はこの沼に沈んでいるという万華鏡を手に入れること!!
発見に協力された方には紅マグロ5匹さし上げますする

がん

鷹ちゃまーっ何んでもします〜〜っ
うわ
3日後
おっ

ズボーン

ヒデコシの奴、火薬玉なんか使って…
あれじゃ探してるというよりこわしてるみたいだな

くっそ〜っ出てこい万華鏡
火薬玉の…使いすぎじゃありません!?
これじゃ万華鏡がこわれちまいますよォ

こわれても見つかればいいのよォ
オレは紅マグロ食いたいだけなんだからーっ

ああ…とんでもない奴やとっちまった
ちょっと休けいして気分転換やりましょーっ

ゲーン
ギエロロル
バ/ドドド
うるせーーっ
言うともっと
音上げるぞ
すばらしい
こんないい加減な
音は初めてだ
ドドド
真剣な音色から
一番遠く離れた音だ
ゲーン
ギエロロん
よーっツキミ姫
水草の調子は
どうだい？

やっぱりパンツ君の言った通り…
ユラギリ草はくったりしてる…

水も土も蛇腹沼のを使って…
水は毎日とりかえたんだけどねえ…
ツキミ姫でもムリかぁ〜っ

ギエッ!!
植物にはとても繊細な性質のものがあるからねえ
ゲローヅ
ニューーン
繊細からほど遠いギターだ

相変らずすさまじい音量ね
こっちへ来るよ
調弦が適当だから音色もひどい

これじゃユラギリ草も枯れちまうな

ギィン
あっ

ユラギリ草が

元気になってる

オレのギターは岩にもしみるーっ
ツキミ姫のブドウ酒は腹にしみる
まったくまったく

ユラギノ草は でっかくて きたない音に 反応するんだな…
植物って 本当に 不思議ね…

ギロロロ

ウーイ あかわりーっ

なんだ パンツ帰るのかぁ
あれ ツキミ姫さん いませんね
ああ

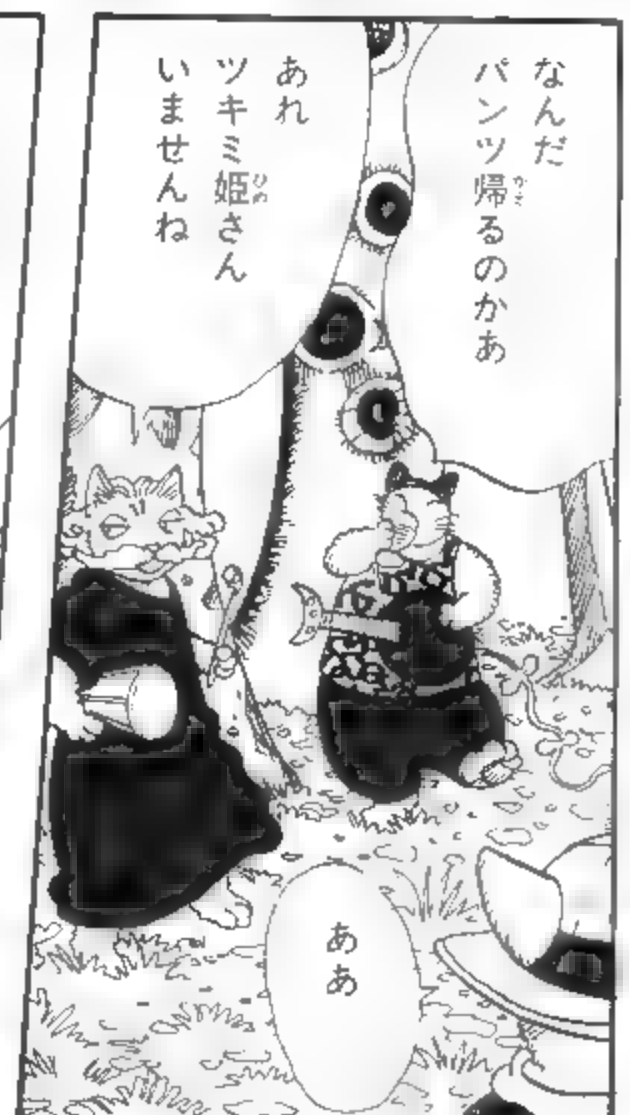
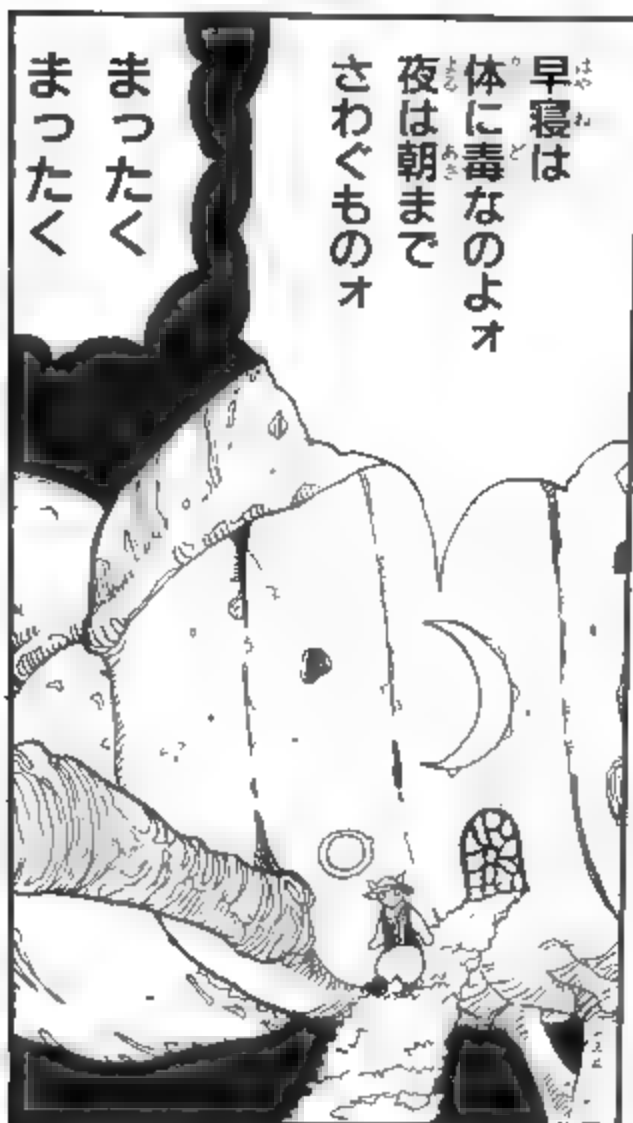
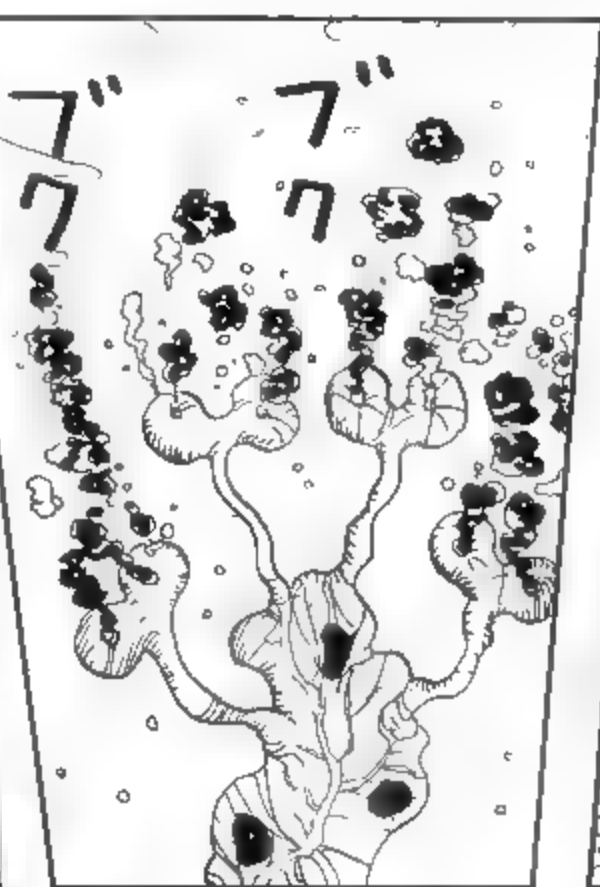
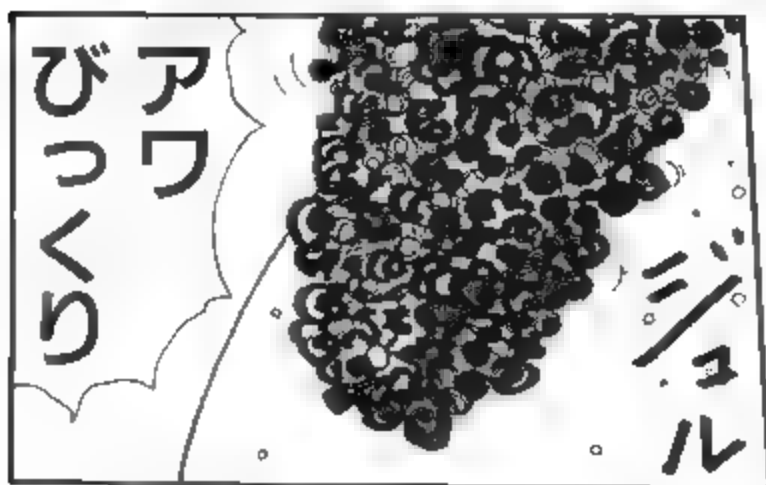
ツキミ姫なら 4階の部屋で ねむってるよ じゃあな

早寝は 体に毒なのよォ 夜は朝まで さわぐものォ
まったく まったく

おっ
水草がアワ吹いてる
ブク
ブク
でっかい音が好きなのかーっ
ホレホレ
ホレーッ
バキーン
ブク
ブク
あっ

ジュル ジュル
何んじゃこりゃーっ
弾けば弾くほど
ジュル
アワびっくり
んっ音が止まった…
あっ

ズル
ズル
これは…!!

すごいのよーっ
蟻んこみたいに
ズルズル
のびていくのよォ
ガサ
ガサ

お前は何んでも
腹に入れてみないと
気がすまないんたな

オレの腹は
探検腹なの

ジャリジャリしてて
砂っぽい味
だったぞ

そんなもん食べてると
そのうち腹に穴が
あくよ
ホホホホホ

あれ

発芽し始めたぞ

こげなもん
いくら生えたって
うまくないんだから
それより
ツキミ姫

きのうの
ブドウ酒
もっと飲み
てーなあ
一樽ともカラッポよ

・・水草の
ニオイが
するなっ

おお
すごい…

すごいって・
何が?
ホレ、ホレ見てみろ
すげ
すげ

何がすごいんだよ?

何んっ!!

ああ
ユラギリ草は水の外でも繁殖するんだろうか
ヒデヨシのギター音を聞いて、性質変化したのかも
んにゃ〜っ
ぬわんだ〜〜っ!!

あっ

万華鏡だ

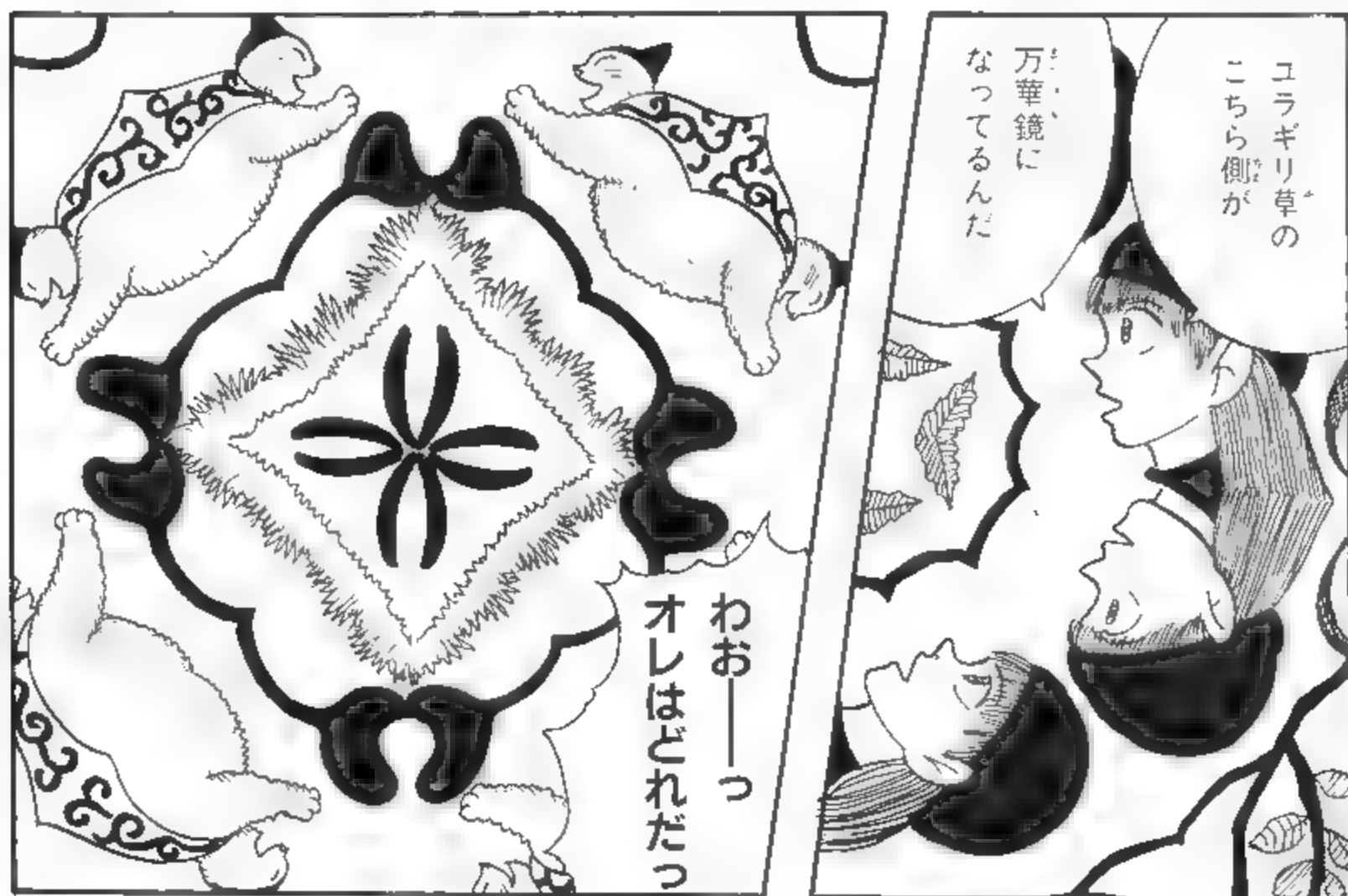
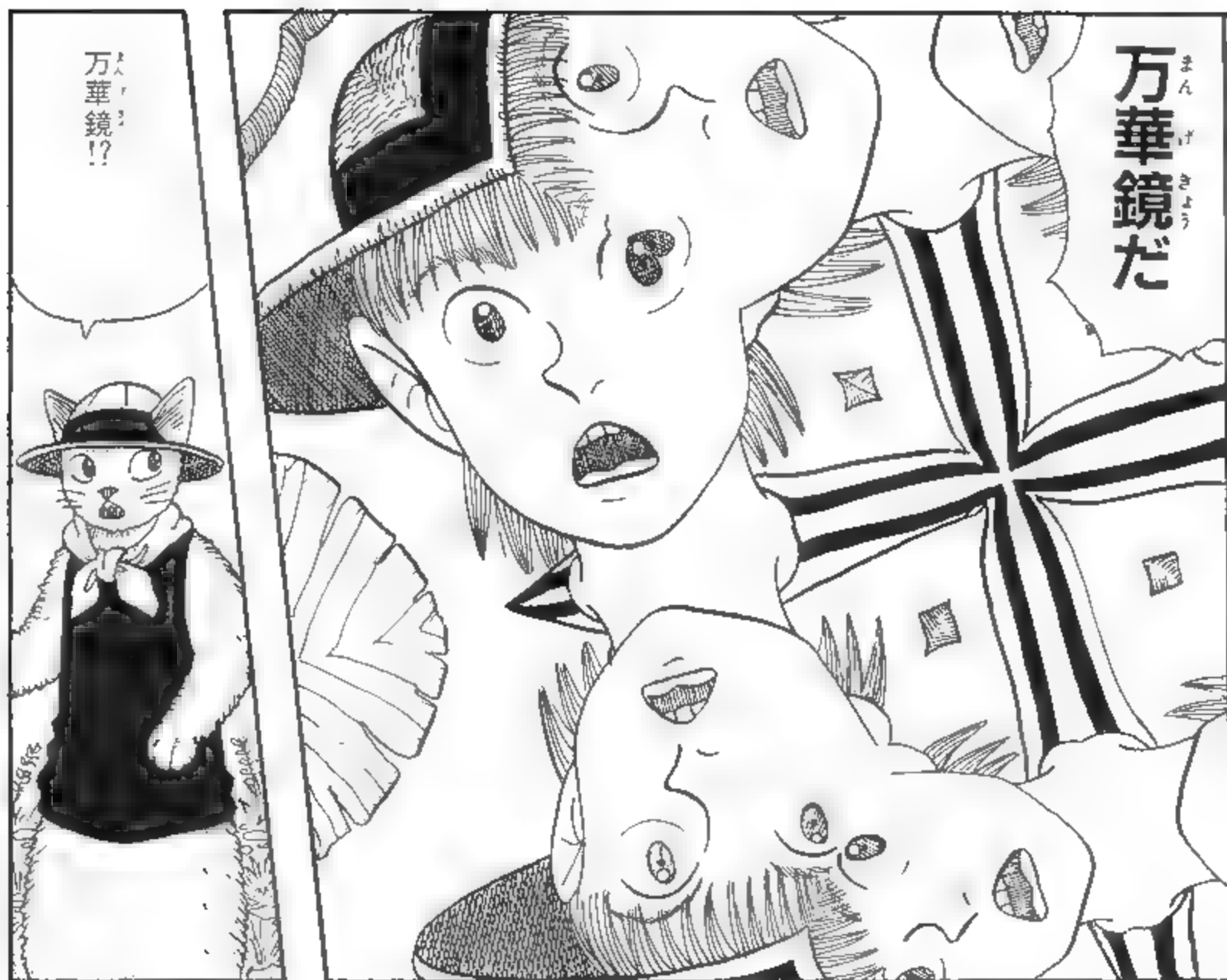
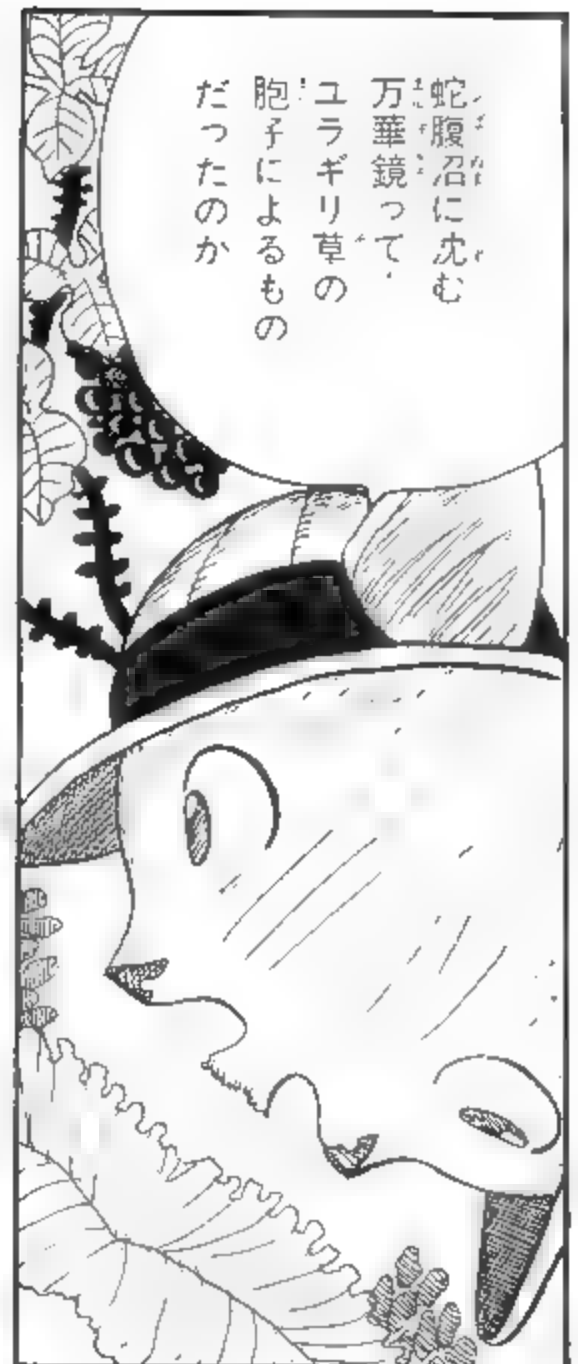
万華鏡!?

蛇腹沼に沁む
万華鏡って、
ユラギリ草の
胞子によるもの
だったのか

ええっ
ユラギリ草に
轟音を聞かせた時
誕生する・・

やったぞ
紅マグロ5匹だっ

でも、なんだか
この一帯に
不思議な
気配がする・

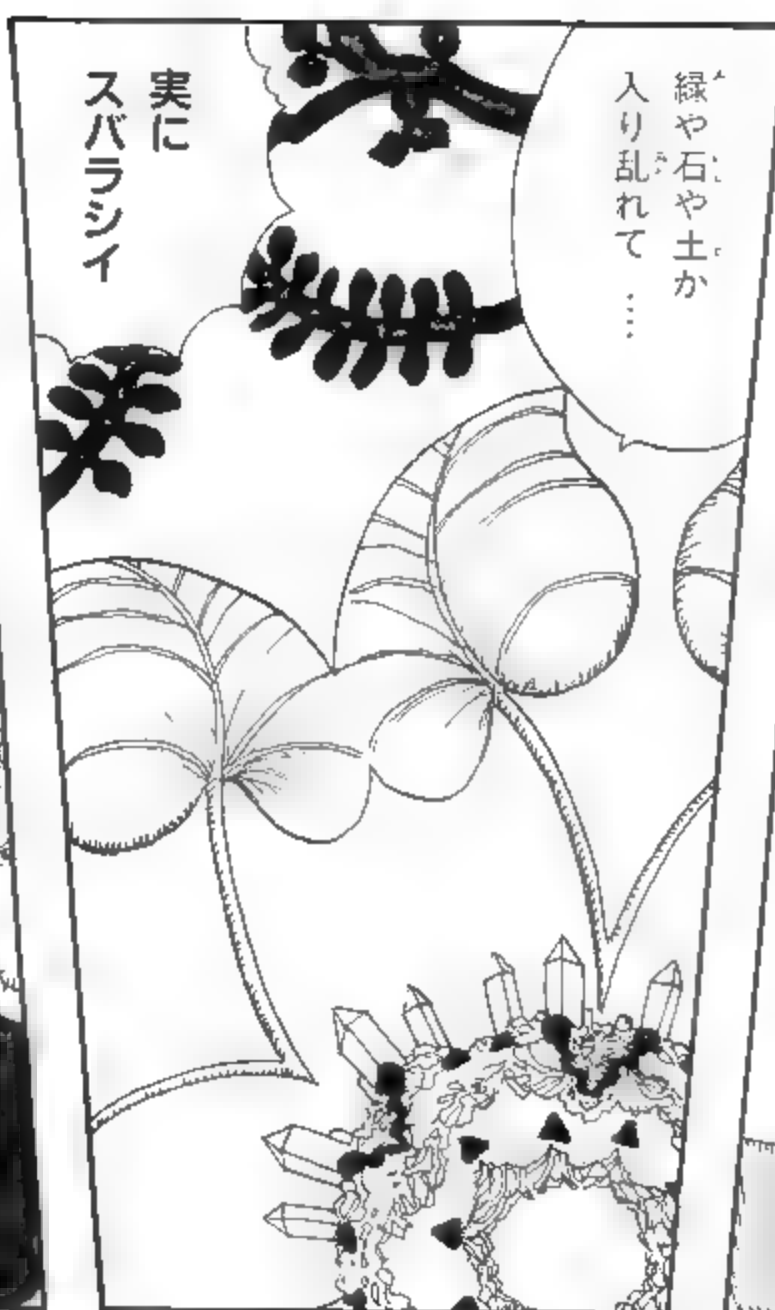
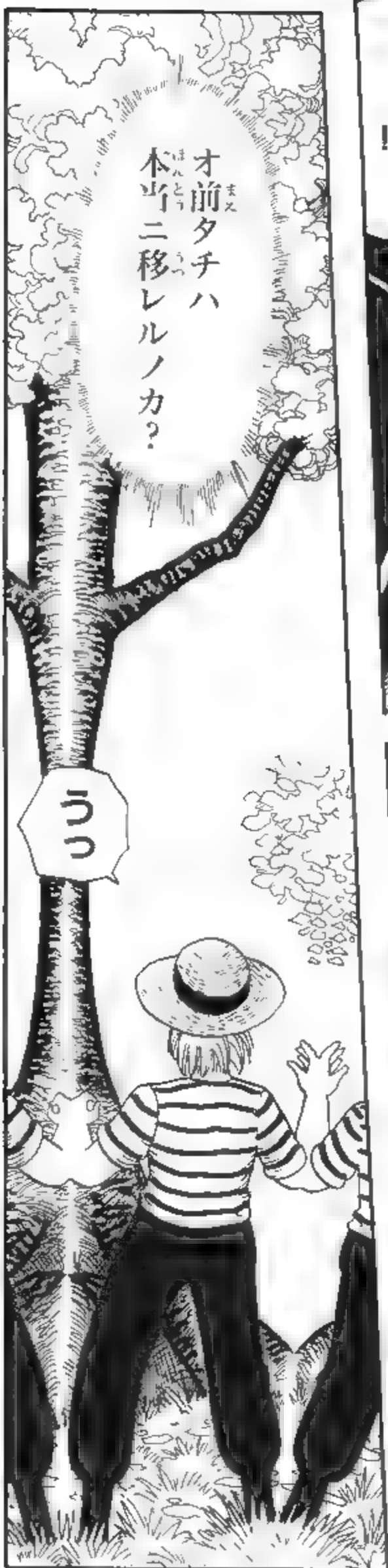
不思議な
気配？
それはまさしく
紅マグロの
気配よっ
すばらしい

私は、いろんな万華鏡を集めて来たが

こんなみごとな万華鏡は見たことがない

緑や石や土か入り乱れて……

実にスバラシイ

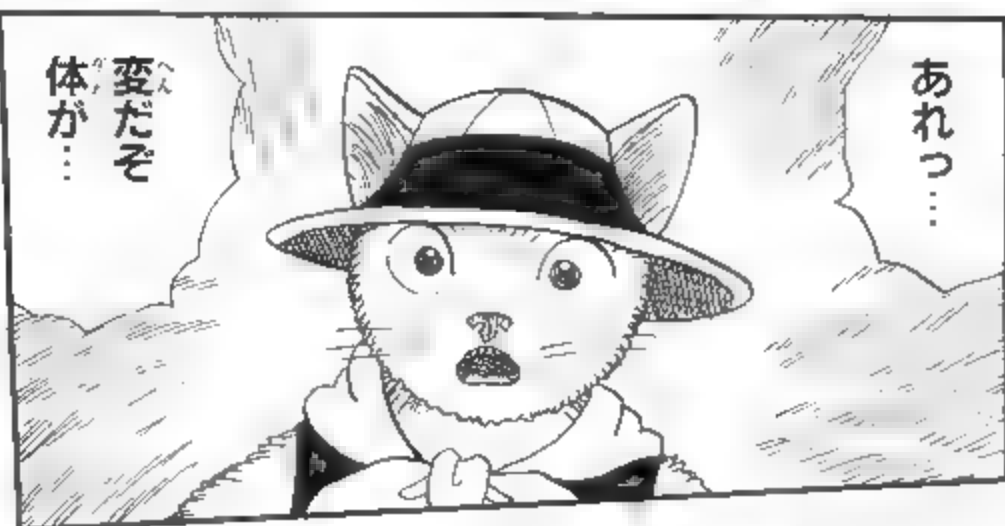
蛇腹沼の底にはユラギノ草がたくさん生えてましたよね

ええ

いいぞ
鷹床ちゃん
ユラギリ一本に
つき紅マクロ
一匹だせーっ

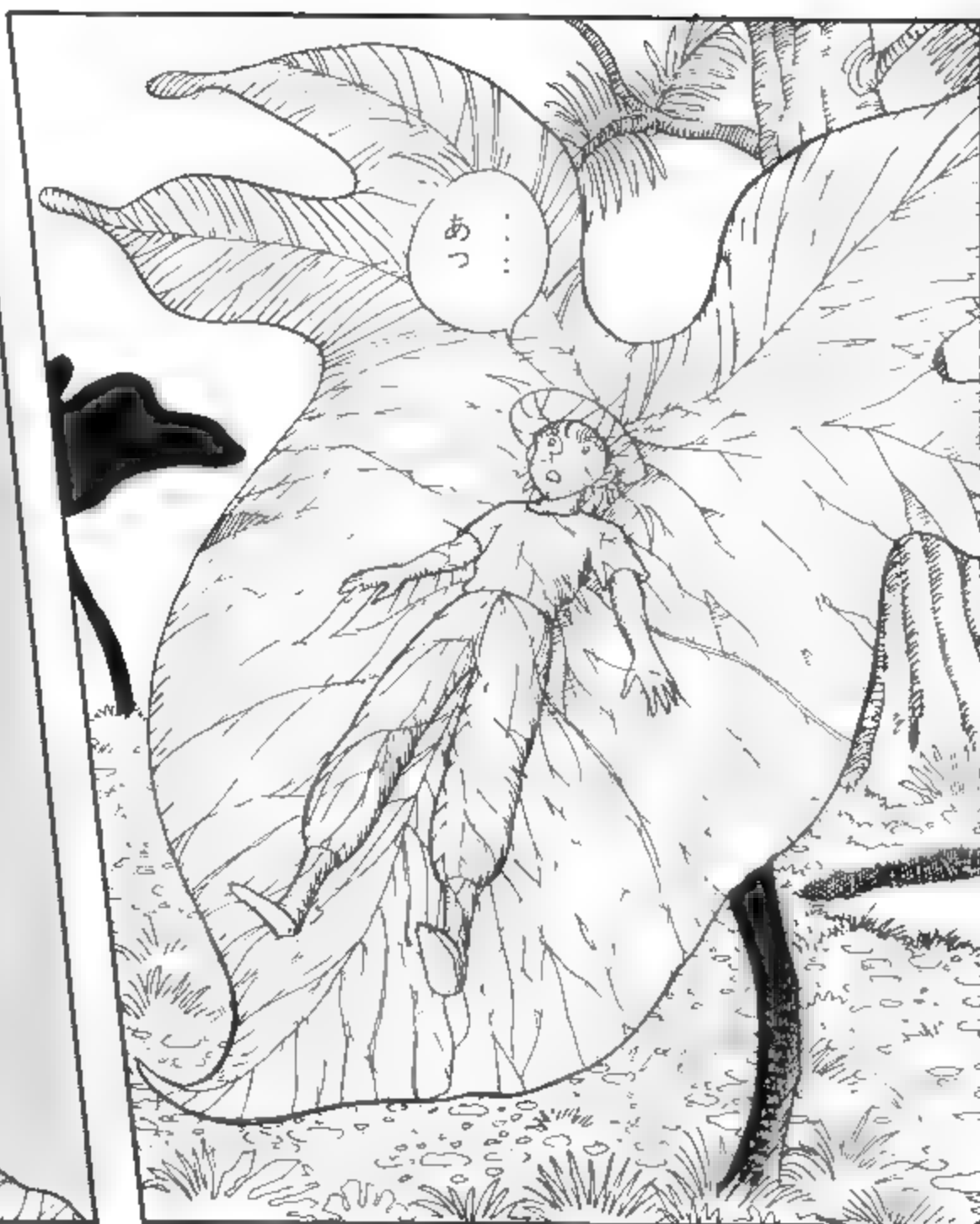
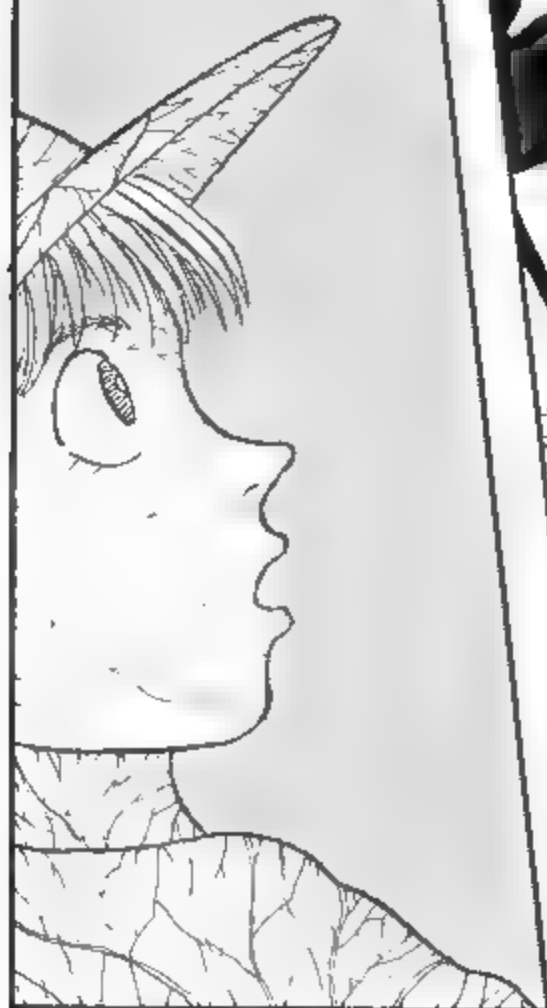
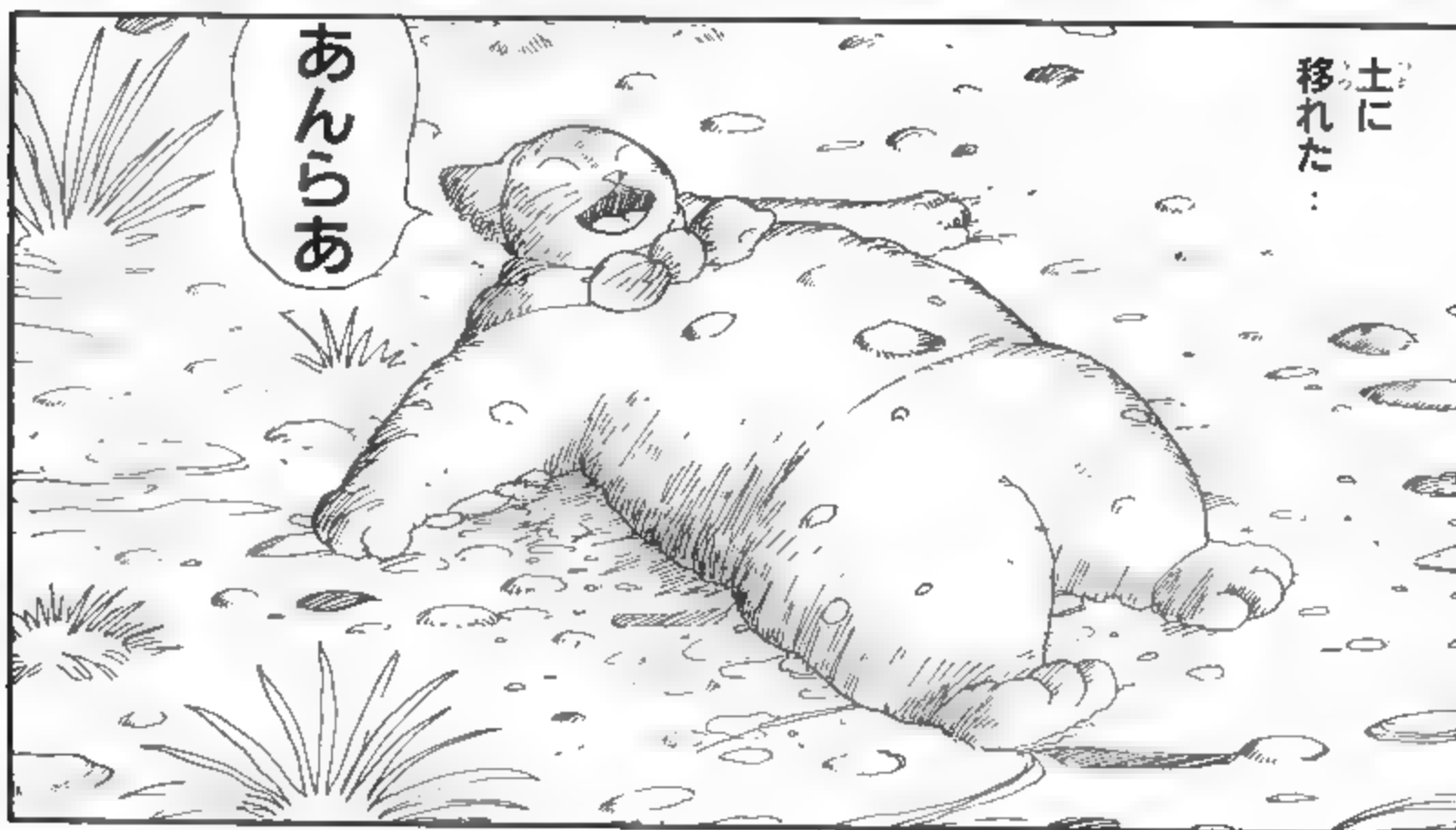
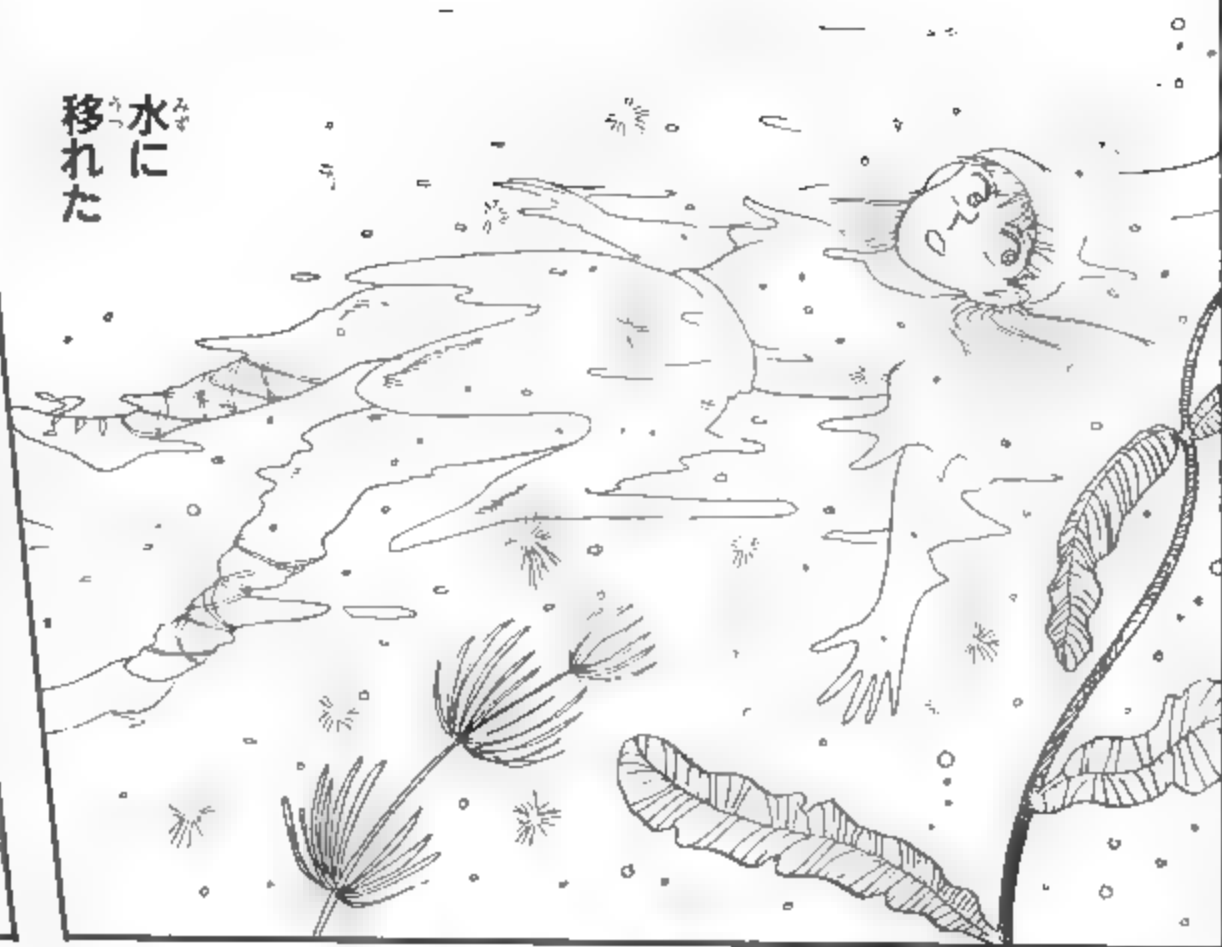
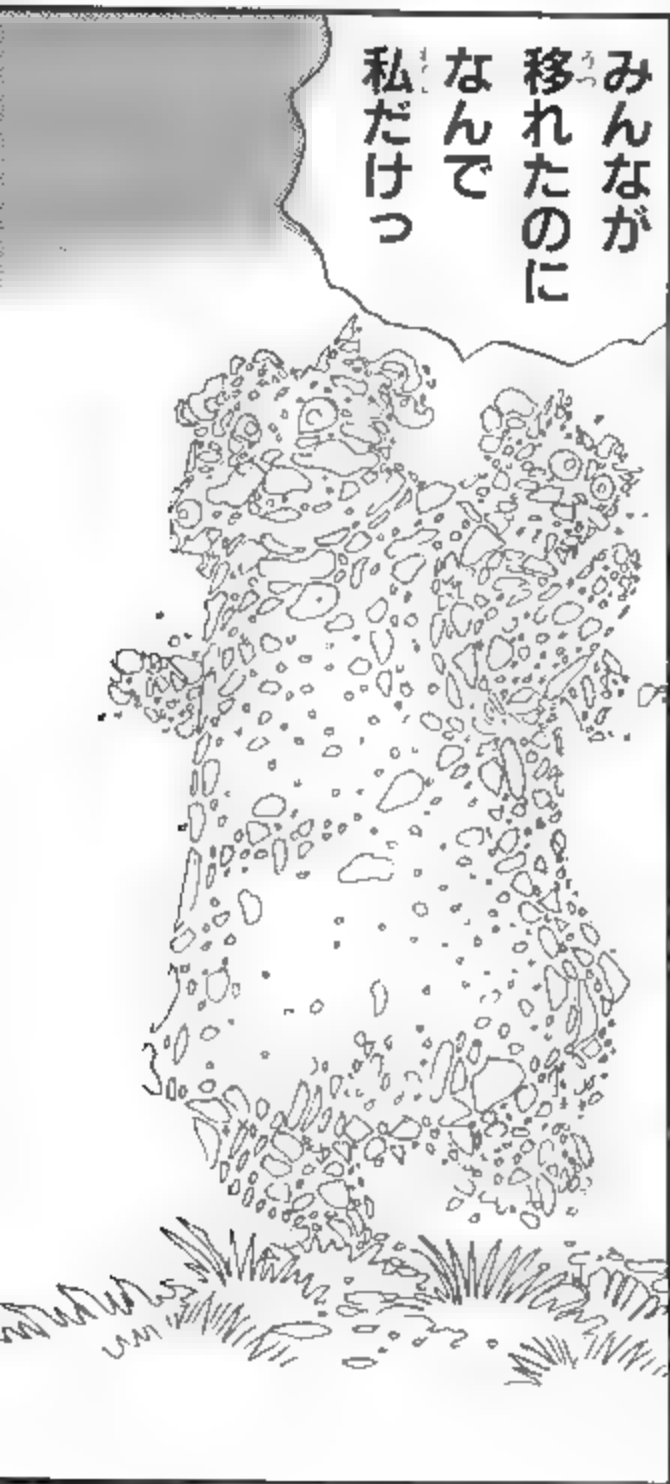
！
この気配は
……!?

あれっ……
変だぞ
体が…

オレがバラバラに
なっていくような…
自分がどれなのか
…解らなくなってきた

オ前タチハ
本当ニ移レルノカ？
うっ

移れるかって
…何に!?
ああっ
体が動かない
オ前タチハ
本当ニ、移レルノカ?
くそーっ
オレはどれ
なんだーっ
あっ
おあっ
わっ
ああ…

草に移れた・・・
・・・あっ
土に移れた・・・
あんらあ

水に
移れた
ミィーン
ミィー…

「けっして手に入れることの
できない万華鏡」…

あれを所有しようとすると
中にいるものは、何かに
移らされてしまう…

オオッ鷹床ちゃん
なんとい――う事
に――っいっいっ
親方

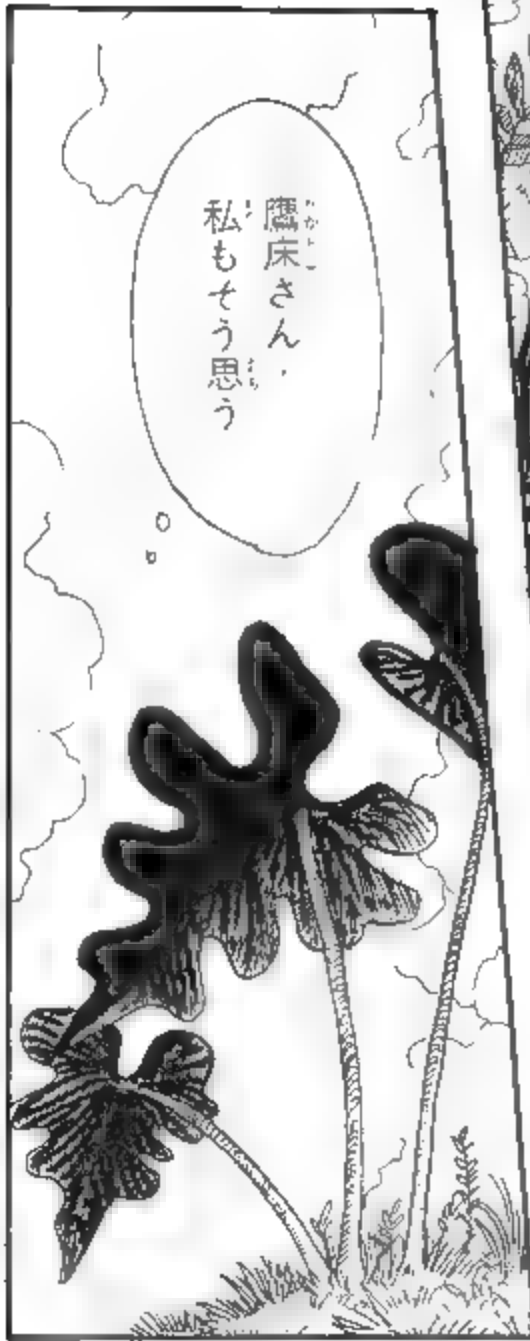
みんなが
移れたのに
なんで
私だけっ

たぶん……
石や草木よりも
自分が優ていると
思っているからだ

えっ
しかし…
石なんか
と違って
…私は言葉を話すし
歩けるし、物を作れるし…

ブブブッ
鷹床おやじ
石は固いし
オレたちより
ず───っと
長生きするぞ

まあオレは
このままで
いた方が
楽しい
けどねーっ
うむむ

2日後
おおっ
やったぞ
鷹床っ

移れたっ

石に移って・気がつくことは・
私の持ってる時間が・・!!

鷹床さん・私もそう思う

水や土や草に移った時
移れば移るほど感じるものがある・・・・・それは

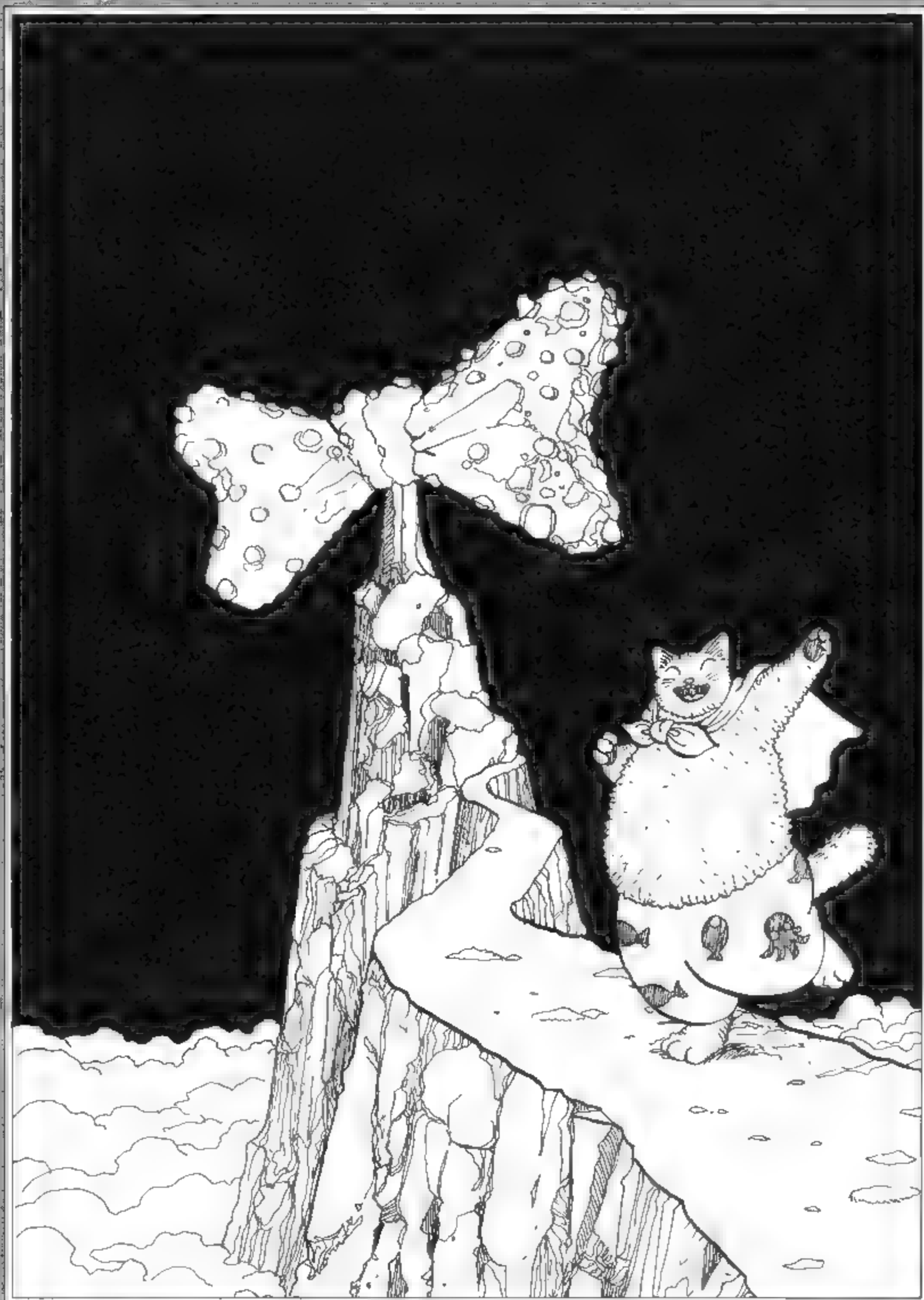
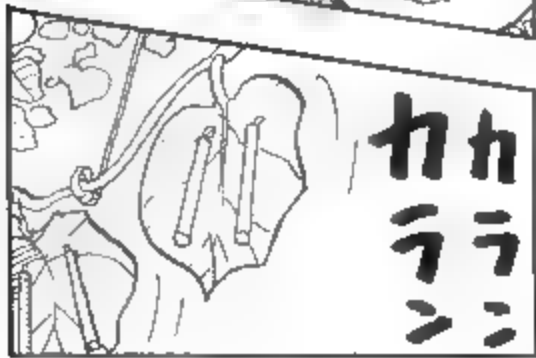
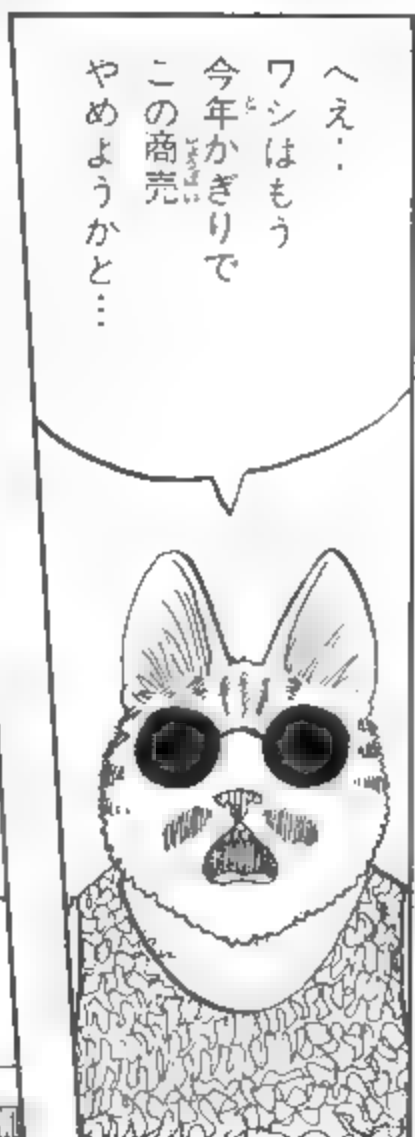
私たちの生きてる時間の

いとしい程の短かさ.

リボン

ミーン
ミィーン

セミ天定食も
もう少しで終りかぁ
秋だもんなあ

へえ…
ワシはもう
今年かぎりで
この商売
やめようかと…

ヒデヨシ参上
ガッ

自分でセミくらい捕れ――っ
盗んだセミはんまいのよ――っ

コノヤロまた来たな

ふう

あ〜っ重かった
ミンミィー
ドン
フフッミンミンミンといい声ね〜っ

さっそく生食いしてあげるね

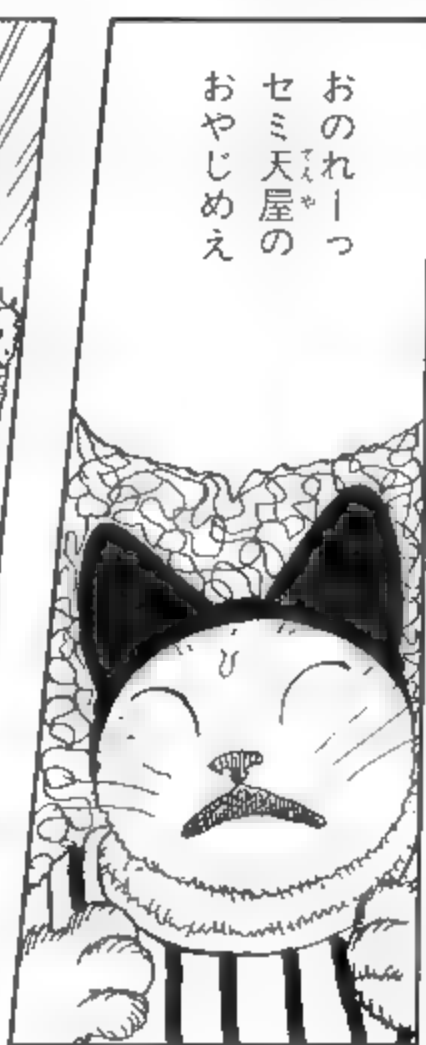
ら
ミ〜〜ン
ミィ〜〜ッ

ぶくくっ
ブチ丸何やってんだっ?

セミ天屋のオヤジにやとわれたんだ

コラッ
また運んでねーっ
デノ猫ののろま便

おのれーっ
セミ天屋のおやじめえ

こきたないまねをーっ

何か
こきたない
だよ
セミくらい
自分で捕れよなっ

お説教聞く耳
ありません

オレだってもう
説教する
気力がないよ

ところで、
釣りに行くのか
ああ
でも、釣っても
食えない魚だよ

オレに食えない
魚なんか
ないわよ

食わして
くれい
釣れたらな

なっ

何んだよ
ここは
ツムギ沼じゃ
ねか

ここに
いるのは
ツムギ魚
だけだぞ

だから
言っただろう
釣っても
食えないって

さすがの
ヒデヨシも
この毒魚食って
3度も医者に
行ったもんなあ

あん時は
腹痛くて　死ぬかと
思ったぜ

死ぬ思いしながら3回も食ってしまうところがスゴイよなあ
ツムギ魚が食えればよ～っ空腹で苦しまなくなるからな

なあ
ツムギ魚なんか釣ってどーすんのさ

研究するんだよ
けんきゅう??

ツムギ魚は解らないことが多いんだよ
成長して5年くらいたつと、透きとおってきて

そのあと水の中に消えてしまうんだ
卵の産卵法も解ってないんだよ

おっ
ぐっ

色がかなり薄くなって来てるな
ビタ
ビタッ
研究にはけっこういいな

あやまった研究にいそしむ若者よっ

この魚が透明になろーが卵がどうなろーが
・・・すんな事あ研究とは呼べんぞ

呼べなくてもいいよ

おーーッ
パンツ君
「先生、真の研究道を教えて下さい」と言ってくれーっ
「スミレ博士ごっこ」やるならヒデ丸とやれよも〜っ…

言ってくれーっ

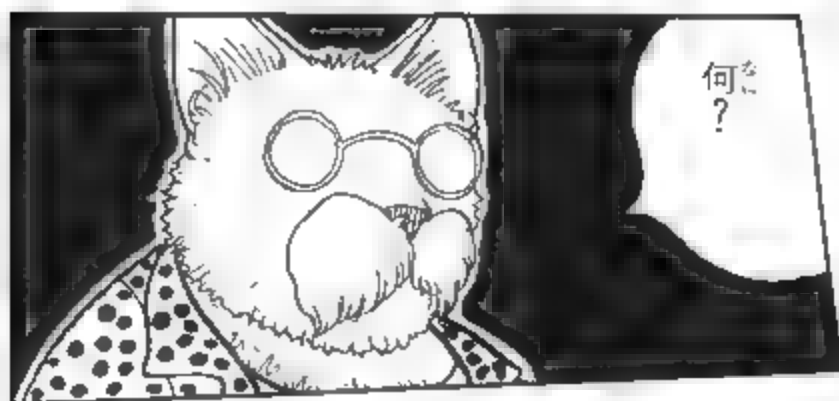
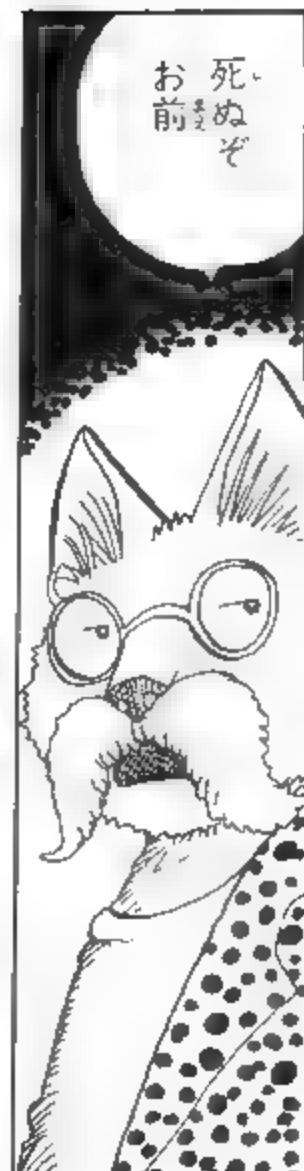
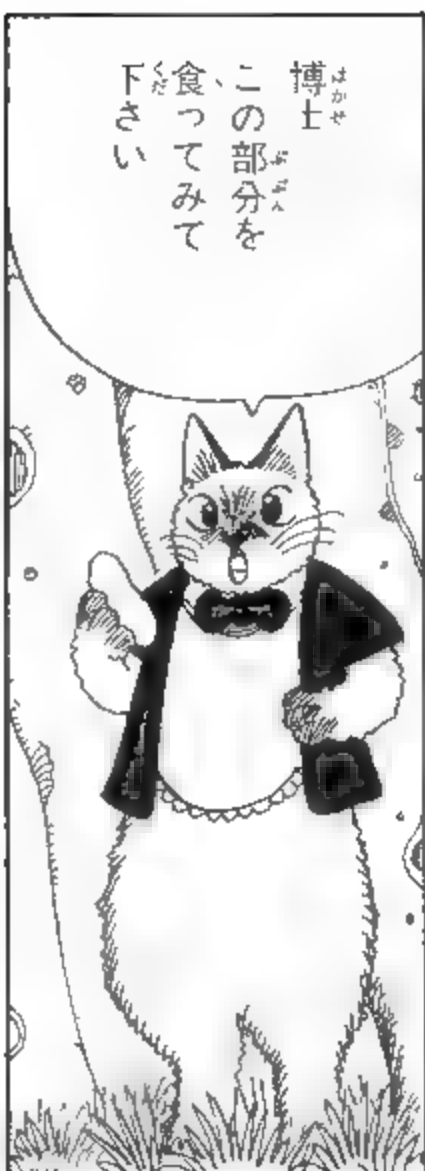
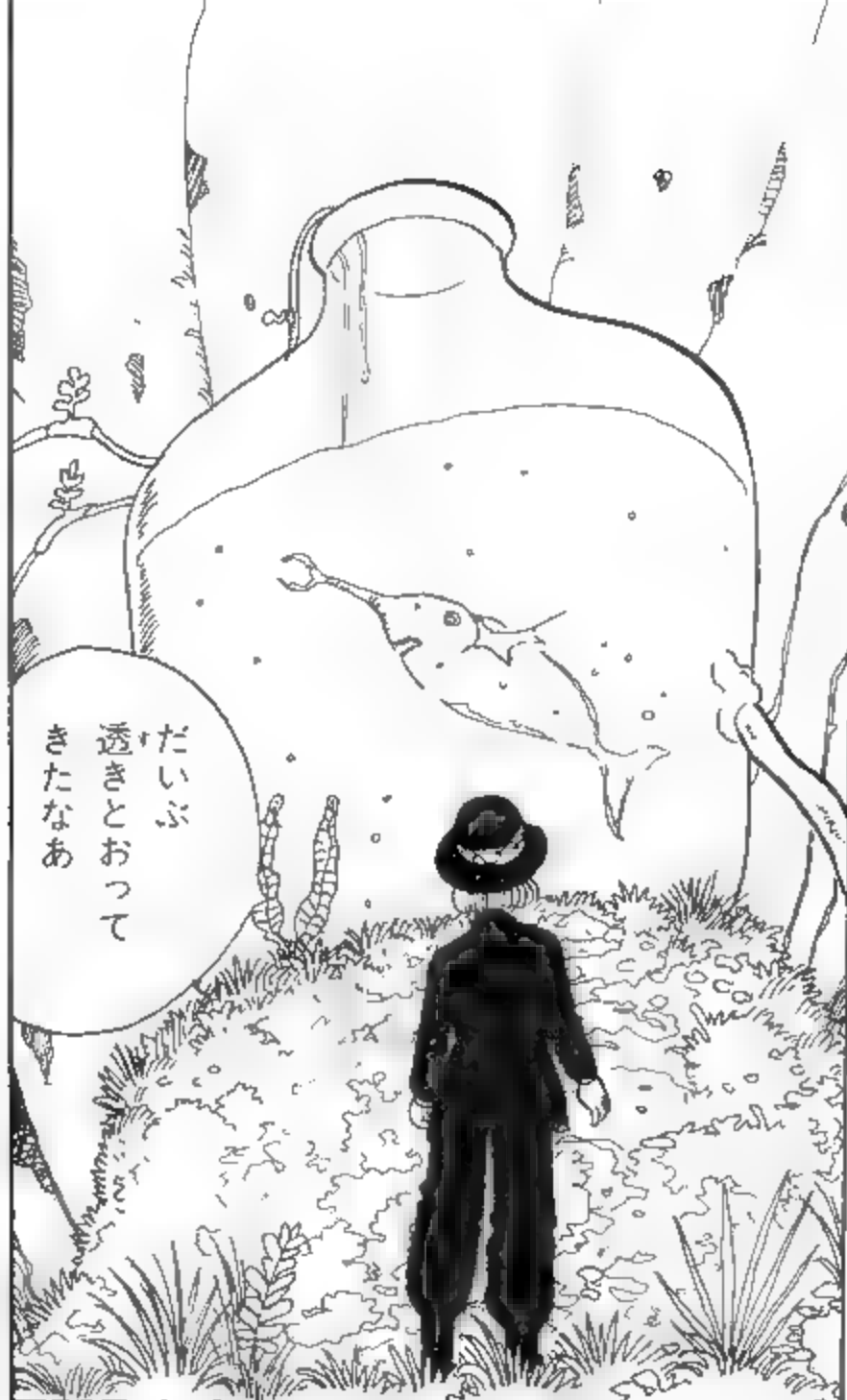
先生〜っ真の研究道を教えて下さい
よろしい不肖の弟子パンツよ

真の研究とはなっ
この毒魚を食える魚にすることじゃ

私はここに宣言する
スミレの腹にかけてこの魚を食用にしてみせるっ

死ぬぞお前…

翌日

痛いのじゃーっ
苦しいのじゃーっ
あたり前だ
ツムギ魚なんか食ったらふつう死ぬんだぞ

解毒剤たっぷり飲んだから…まあ二度とこんなマネするなよっ
強烈な解毒剤あと10本置いてってくれ
何？
博士まだ実験を続けるんですか
当た棒タコ棒イカの棒じゃ

死ぬぞ
お前

10日後
解毒剤も
だんだんなくなって
来たなあ
ここか…

博士
この部分を
食ってみて
下さい

よーし
食ってやる
痛ででで
もーっ
やめましょう

痛みに負けて
研究ができるか
続けるんだ
ヒデ丸

探究心でしゃべって
るのではない……
いやしさが
しゃべってるんだ

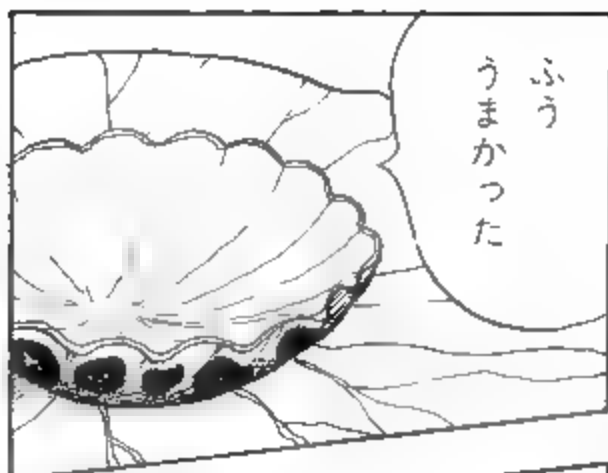
苦痛を
のりこえる食欲男
2日後

だいぶ
透きとおって
きたなあ

ああ
見れば見るほど
不思議な
魚だぜ‥

あの鼻先の
部分なんか…
何の役に
立つのかねえ

こんにちは
月見ダンゴ
食べないか？

へーっ
ヒゲ魚の
すり身で
作ったのか
なかなかの
味がするよ
ヒデコシ君にも
食べさせようと
思ってるんだ

ふう
うまかった

しかし、パンツ君
ずいぶん沢山
本あるねえ

あれっ

ツキミ姫
そのしっ尾!?
あっ

いけねえ…
だからっ
人間なんか
無理だって
言ったのに

けっこう
つかれるのよ
これーっ

まさか…
このダンゴ

そうじゃ
ツムギ魚の
ダンゴじゃ

だが安心しろ
ワシが食っても
ついに腹痛
おきなかったのじゃ

食、食ったのは
お前だけか
ヒデ丸は
食べたのか?

ヒデ丸か

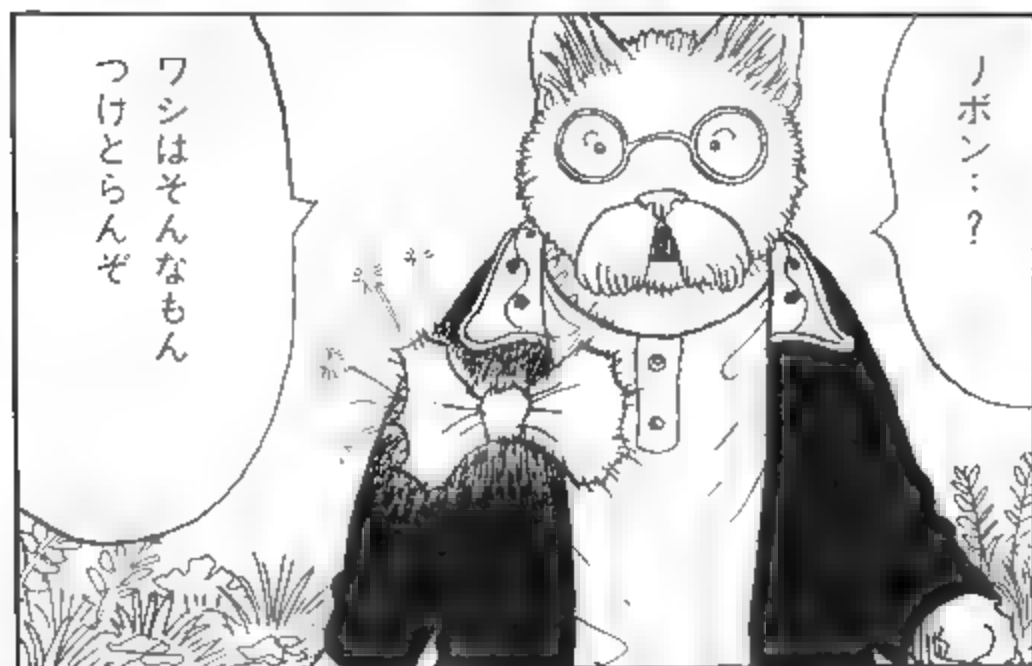
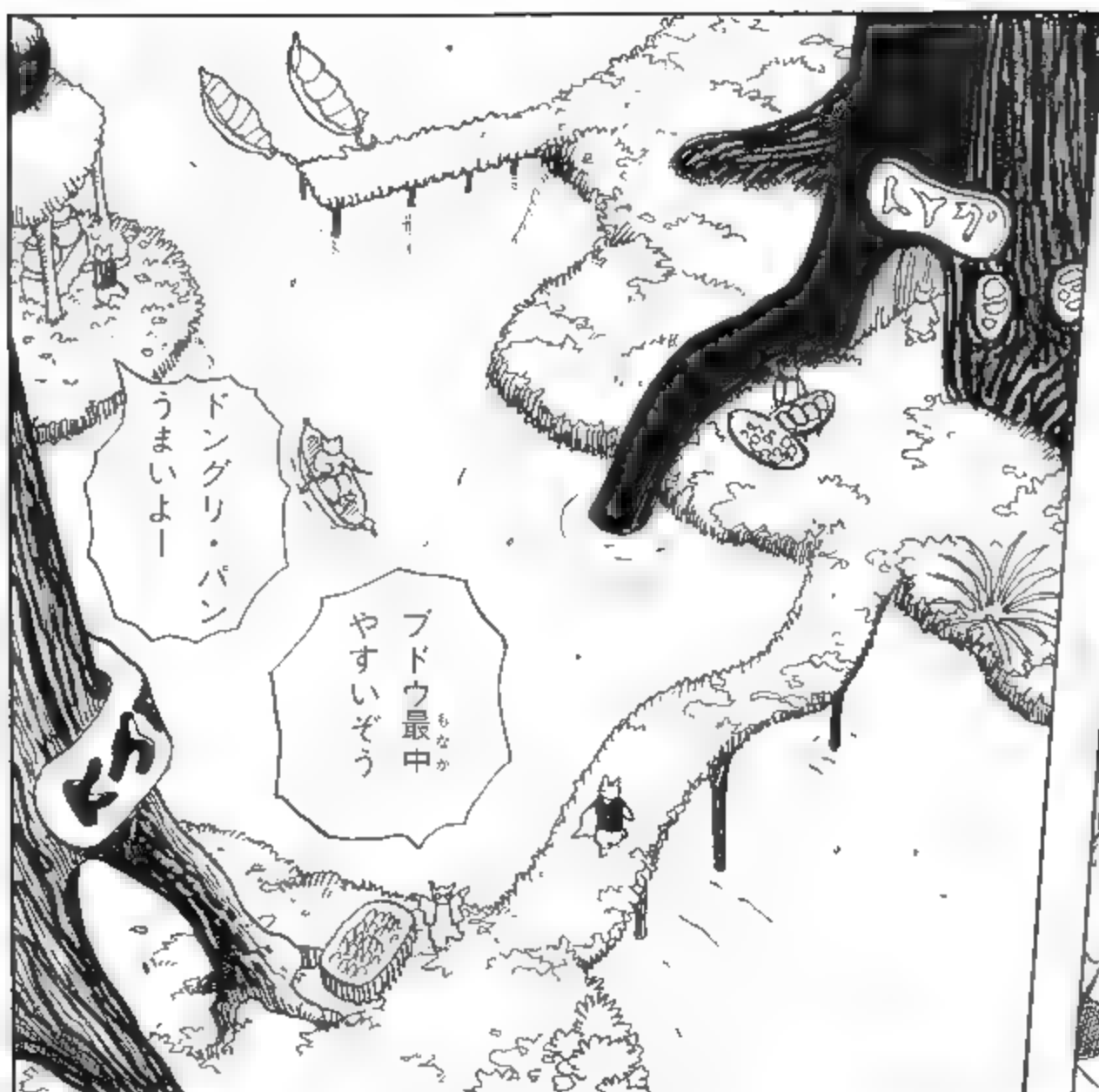
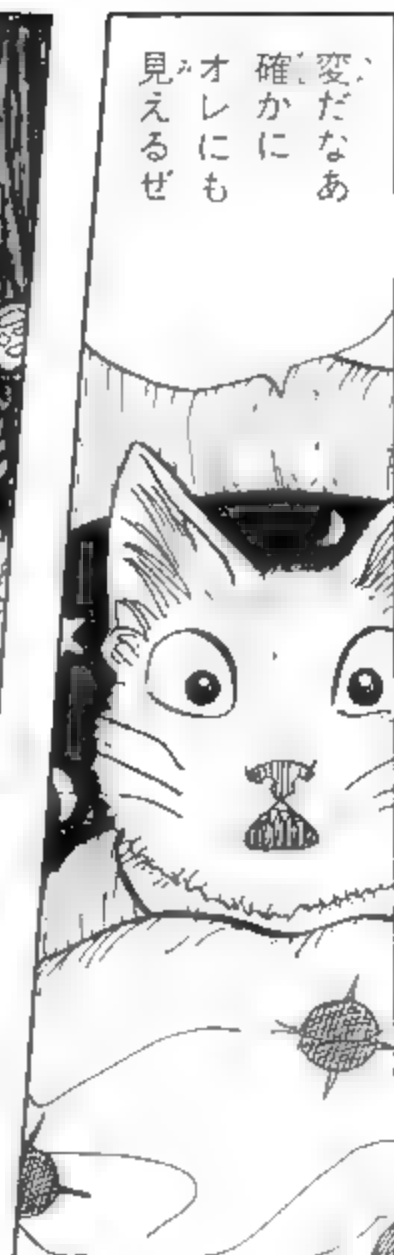
ヒデ丸は
ま〜だ
子供よのう
ダンゴを食べさせ
ようとしたら
にげ出したのじゃ

痛ってて
コラ
パンツ
ワシは痛く
ねーぞっ
パパパ

2日後
もう
だいじょうぶだ
ありがとう
先生

しかし
友だちに
ツムギ魚を
食わせるとは
恐ろしい奴だ
あれ…
先生

その胸の
リボン
なかなか
似合いますね

リボン…？
ワシはそんなもん
つけとらんぞ

ソムギ魚が
見せる
幻覚かも
知れないな

はずそうと
すると
変な気分に
なるんだよな…

何んなのだろう
このリボン

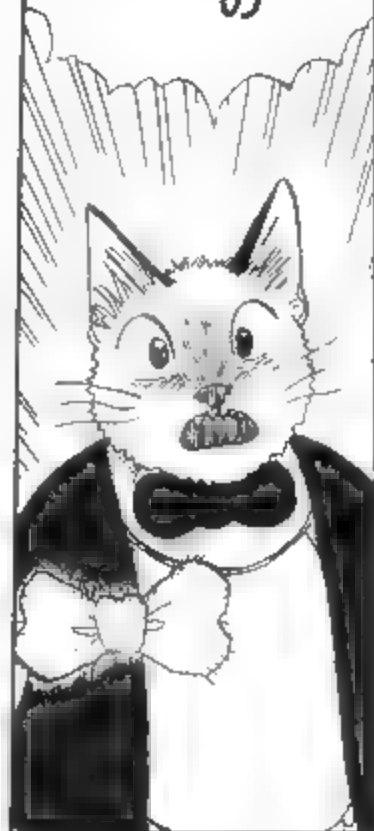
おとなも子供もみんなつけてるな
ああ

いよ〜っツムギダンゴ食わねーか

あれっ
あいつつけてないぞ

食わねえよ
なあヒデヨシオレの胸に何か見える？
んっ

ああ…その青いリボンか

えっ
そんなもの
ついてま
せんよ

やっぱりな
ツムギ魚を
食った者にだけ
見えるんだ

でも
どうして
ヒデヨシに
だけ
リボンが…
たぶん
こいつは

馬鹿を
つきぬけて
しまってるのかも
知れない
馬鹿を
つきぬけた!!

すごい
ですねえ
何んだか
ほめられたような…

よーし
気分の
盛り上った
ところで
ツムギ魚釣りに
行くぞっ

唐あげオヤジにみんな釣り上げられたっ大変だっ
唐上げ丸さんが?
親方先に行ったんです

キエーッ
バシャ

あーっやっとるやっとる

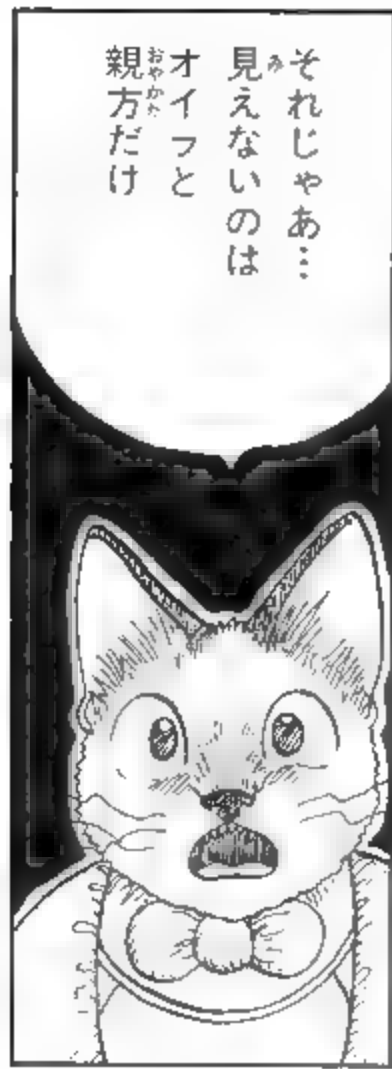
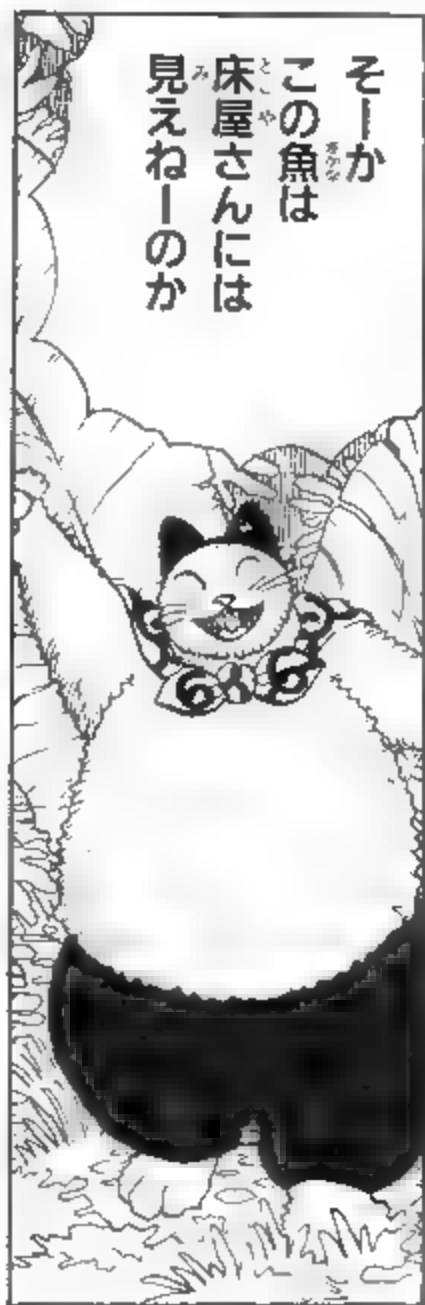
やあみなさんっ
透明な魚を釣るって実に変な感じですねーっ
バタバタ

なにしろ釣っても見えないんですから

見えなくてもいいのっ
食えればいいのよっ

あれっ
見える
じゃないの

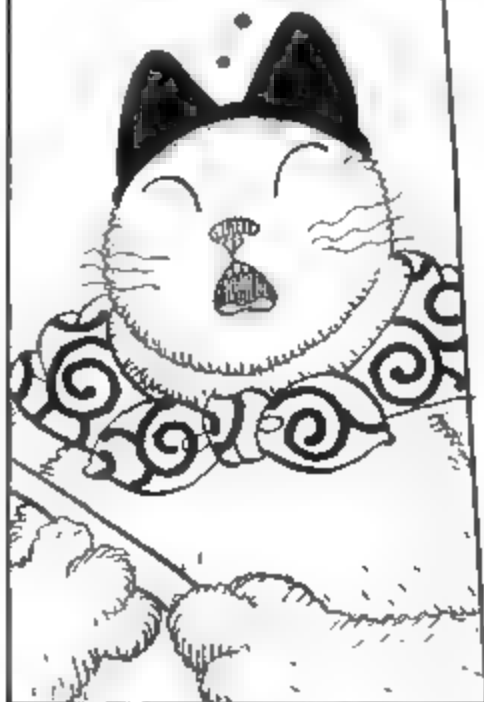
えっ
見える?
ホントだ
ぼんやりと
だけど
見える

それじゃあ…
見えないのは
オイフと
親方だけ

そーか
この魚は
床屋さんには
見えねーのか

そんなことは
ないよ
たぶんオレたちが
ツムギ魚を食べたせいだ

フフフッ
見えるとなると
釣りやすくなるねっ
釣るぞう

しかし
前から気になって
いたんですが

どうして
ツムギ魚って
言うんでしょうか

そりゃあ
この沼が
ツムギ沼だから
だよーっ
オレも調べて
みたんだけどね
「アタゴオル地名誌」にも
「アタゴオル淡水魚誌」にも
はっきりと、のっていないんだ

・・・
あらん
・・・

魚の奴
ぜんぜんこっちへ
来ないぞ
やっぱりな

何が
やっぱり
なのさ

お前、本気で
ツムギ魚を
食べようと
してるのが
解るんじゃ
ないか
なまいきな
魚め〜っ

キッ

キエ〜ッ

どうしたんだい
唐あげ丸さん

何んだか
こう・・・

おかしな
気配が・・・

あれ・・・

何んだこりゃ

こっ…これは…

ツムギ魚って

月光を紡いで…

やったっ

あっ
ヒデヨシ君

どうしたんだ
みんな

上って
こいよォ

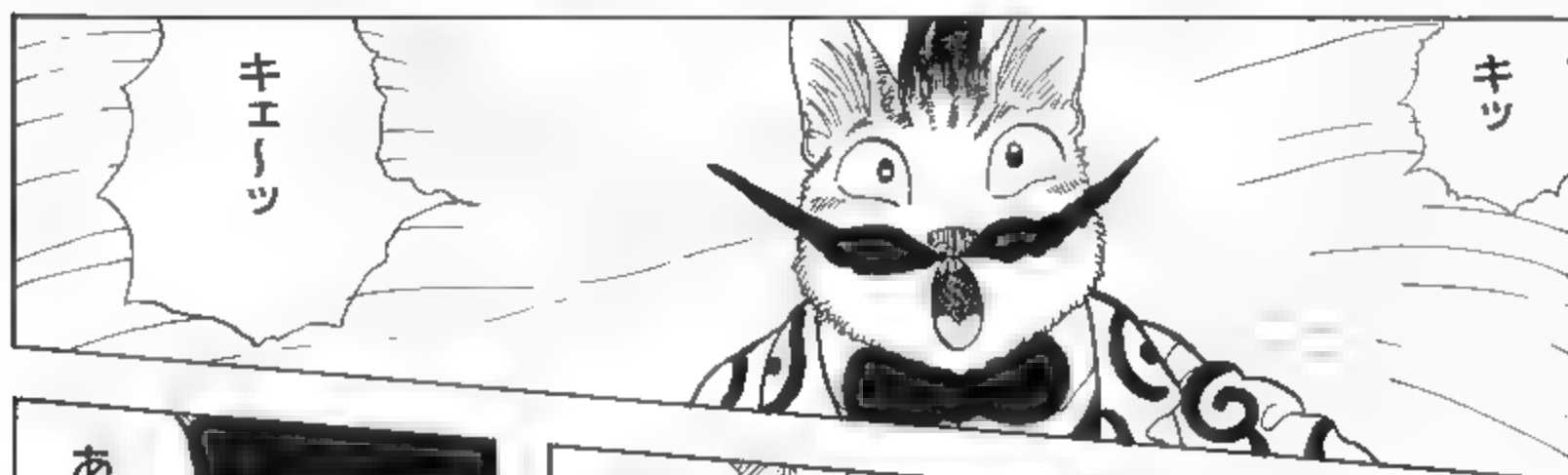
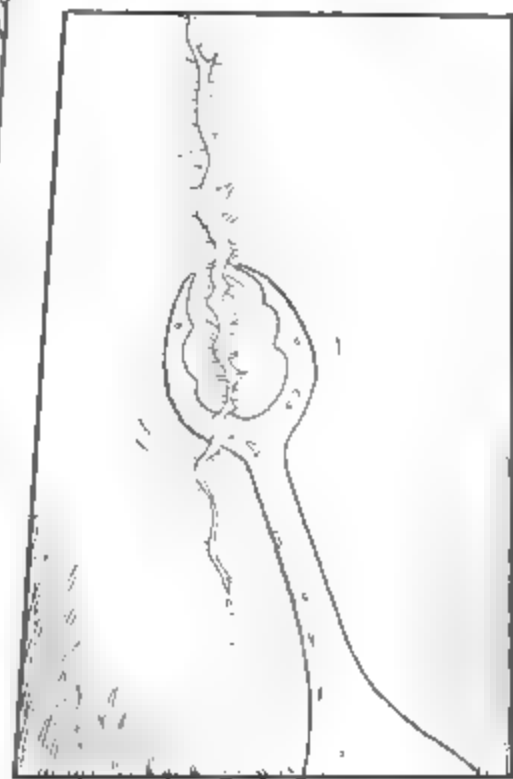
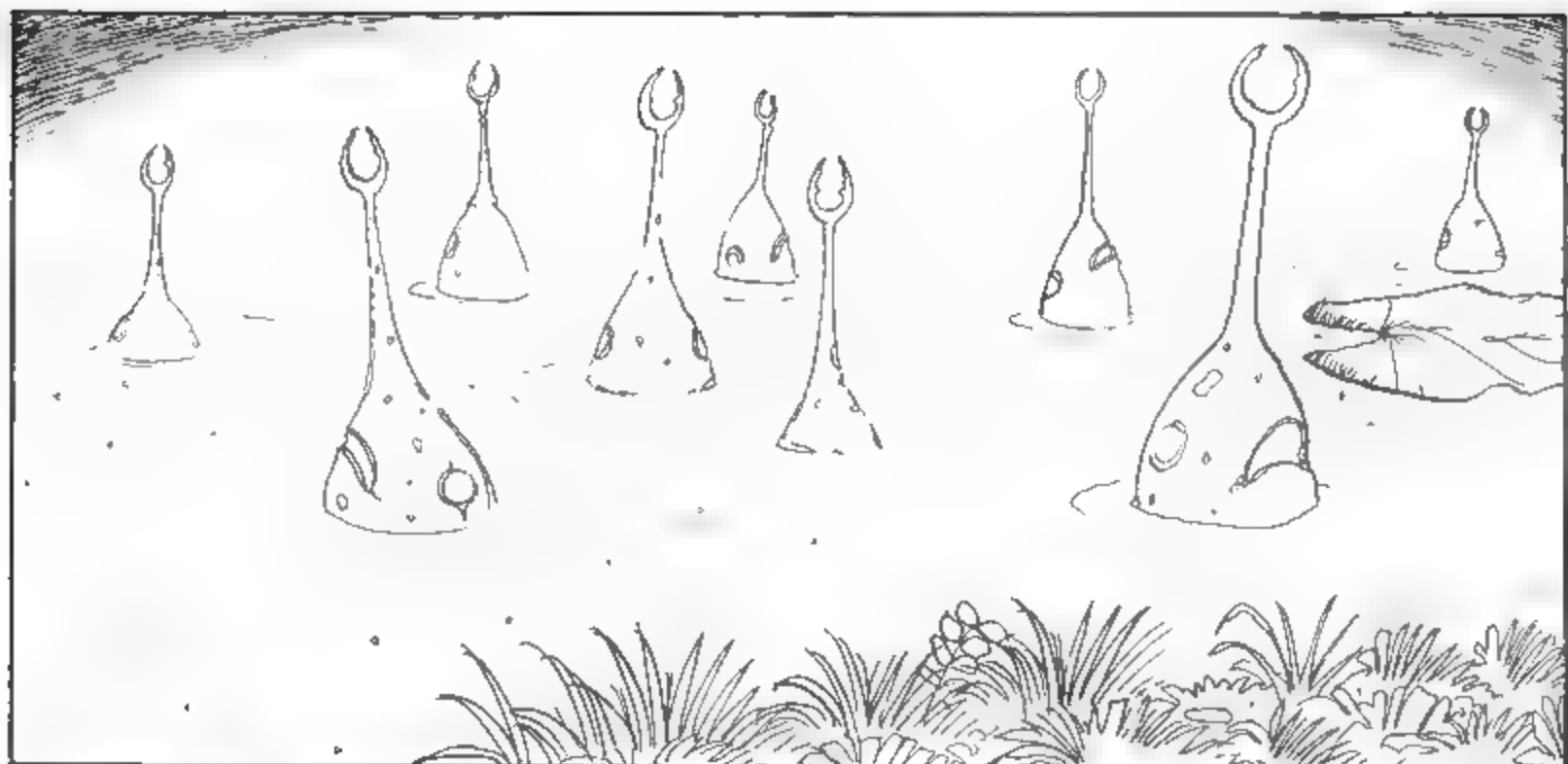
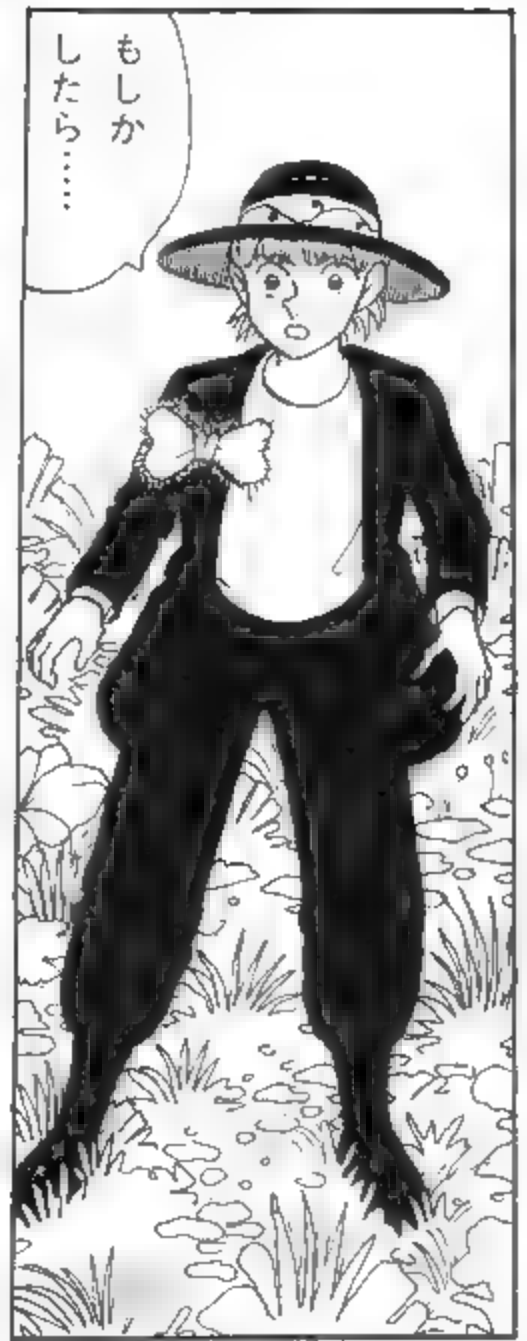
あれっ

もしか
したら……

このリボンの
せいじゃ…?

このリボン!?

でも、
はずそうと
すると、
いつまでも
つけていたくなるぜ

どうしたら
はずせる?
どうしたら…?

そうか
まるでツムギ魚のように
この光を
感じて
ポロッ
そうだ……
そうだったんだ!!

リボンをつけるために
この世に来たんじゃない

この月光の川を
魚たちのように!!

おーい
テンプラッ
パンツはー?

お待たせーっ

ツムギ魚は
ほとんど月光
みたいだな

そうなのよ
かじっても味が
しないぜ

あれっ

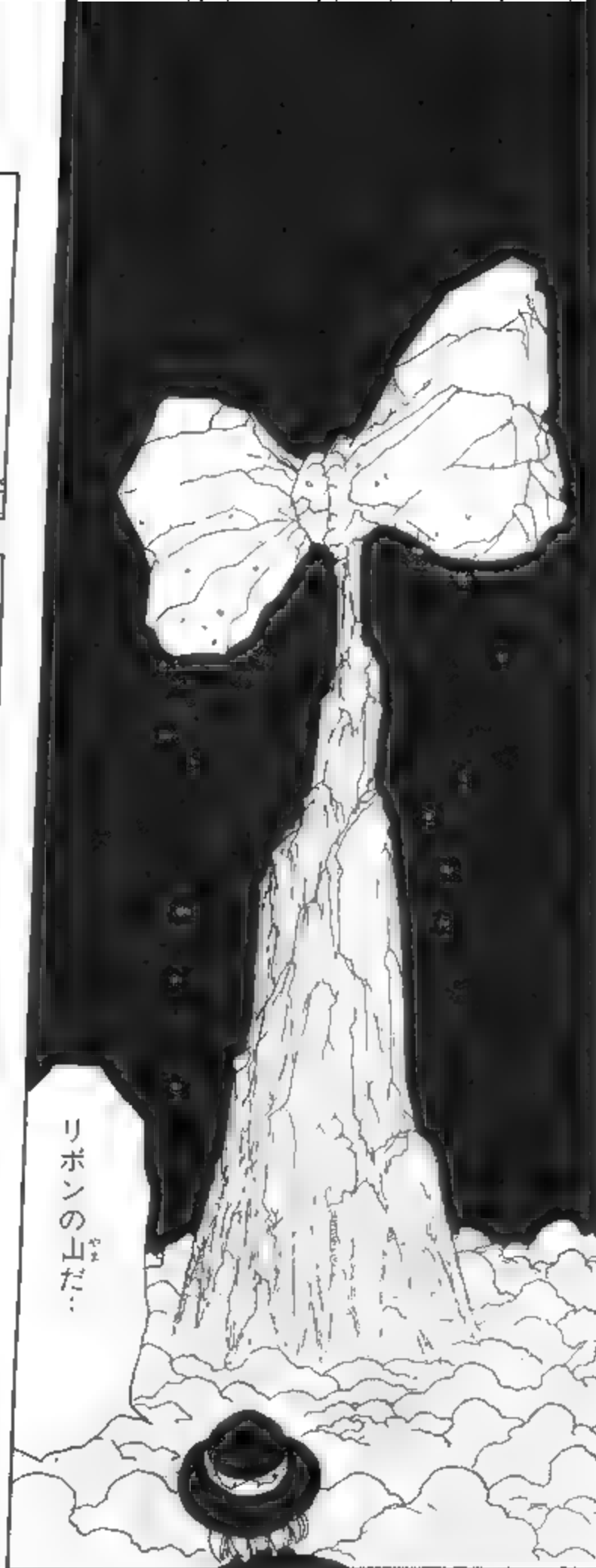
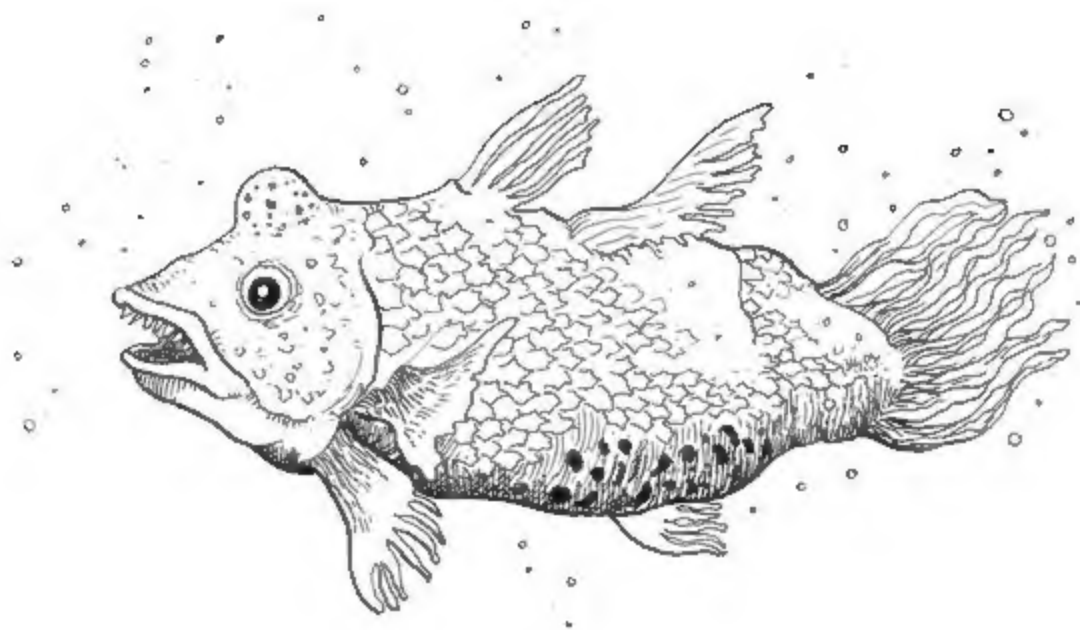
まるで
花粉みたいに
リボンが降り
そそいでいる

リボンの山だ…

あの山へ
行ってみようか
それより
この川を
泳いで行こう

湧き流れる
月光の川

静けさを
吸う
秋の雲海の中

オレは全身で

月光を編むんだ

アタゴオル玉手箱 8

発行　一九九五年一二月一刷
　　　一九九九年　三月五刷
作者　ますむらひろし
発行者　今村　正樹
発行所　偕成社
〒162 東京都新宿区市谷砂土原町3―5
電話　(〇三)三二六〇―三二二一(代表)
印刷　大日本印刷㈱
製本　大日本製本㈱
188P. ISBN4-03-014510-8 C0079, NDC726

Published by KAISEI-SHA, Printed in Japan
定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

＊初　出＊

みるつちいろみる	コミック・モエNo.8
南腹乱魚	コミック・モエNo.9
脈を望む	コミック・モエNo.10
渦の三角	コミック・モエNo.11
かれいど・すこうぷ	コミックFantasy No.1
リボン	コミックFantasy No.2

＊「コミック・モエ」は名前を「コミックFantasy」に改めて発行しています。

ますむらひろし作品

アタゴオル玉手箱1
アタゴオル玉手箱2
アタゴオル玉手箱3
アタゴオル玉手箱4
アタゴオル玉手箱5
アタゴオル玉手箱6
アタゴオル玉手箱7
アタゴオル玉手箱8
アタゴオル玉手箱9
ペンギン草紙
ますむらひろし詩画集「アタゴオル」★